2 令和6年第5回越知町議会定例会 会議録

令和6年12月9日 越知町議会（定例会）を越知町役場議場に招集された。

1. 開議日 令和6年12月9日（月） 開議第2日

2. 出席議員（10人）

1番 小田 壮一 2番 上岡千世子 3番 箭野 久美 4番 森下 安志 5番 小田 範博
6番 市原 静子 7番 高橋 丈一 8番 武智 龍 9番 岡林 学 10番 山橋 正男

3. 欠席議員（なし）

4. 事務局職員出席者

事務局長 田村 幸三 書記 岩佐 由香

5. 説明のため出席した者

町長 小田 保行 副町長 國貞 誠志 教育長 織田 誠 教育次長 大原 範朗
総務課長 井上 昌治 会計管理者 金堂 博明 住民課長 小松 大幸 環境水道課長 箭野 敬祐
税務課長 金堂 博明 建設課長 岡田 孝司 産業課長 武智 久幸 企画課長 國貞 満
危機管理課長 片岡 宏文 保健福祉課長 西森 政利 こども園長 田村 香

6. 議事日程

第1 一般質問

開 議 午前 9時00分

議 長（小 田 範 博 君）おはようございます。令和6年12月定例会開議2日目の応召御苦労さまです。

本日の出席議員は10人です。定足数に達しておりますのでこれより会議を開きます。

一 般 質 問

議 長（小 田 範 博 君）本日の議事日程は一般質問です。広報用に事務局が写真撮影することを許可します。ただいまから一般質問を行っていただくわけでございますが、質問をされる議員の皆さま方に、議事を円滑に進行するため御注意を申し上げておきます。質問に関して、文献や新聞などの資料を引用される場合、必要最小限にとどめていただきますようお願いをしておきます。それでは、決定順に従い7番、高橋丈一議員の一般質問を許します。7番、高橋丈一議員。

7 番（高 橋 丈 一 君）おはようございます。議長のお許しを得ましたので、通告に従い、一般質問をさせていただきます。ちょっと鼻の調子がおかしいですので、聞こえにくいことがあるかも知れません。御容赦願います。

最初に、1番、物価高騰対策ということで、高校生の通学支援補助金を見直す考えはでございます。町は高校生の通学支援用ガソリン代補助金を、1人当たり月2千円、年間で2万4千円を毎年計上していただいております。私も通算で6年間ほど送迎をしてまいりました。その列車の時間を待つ間とかに、子どもを持つ家族からは、大変ありがたいと聞いておりました。また、ガソリン代がもう少し安くないかというような話もよく言われました。ガソリン代が下がるどころか、今年の8月には、178円から182円に上がりました。今月の12月と来月に、また値上がりをするのでニュースで言うておりました。町長、通学支援用の補助金を上げる考えはありませんか。

議 長（小 田 範 博 君）町長。

町 長（小 田 保 行 君）おはようございます。高橋丈一議員に御答弁申し上げます。議員のおっしゃるとおり、高校生通学支援事業補助金につきましては、現在2千円、年2万4千円を補助金として出しております。この補助金の対象者は高校生の保護者で、越知町内に住所を有する者となっ

ております。この補助金につきましては、来年度から増額したいと思っております。今までの月2千円は、西佐川や佐川高校など佐川町までのガソリン代補助金として継続し、なおかつ、上積みとして、JRの定期代への補助金を考えております。また、寮や下宿などの費用を対象にした補助金も加えるように検討をしています。額や制度内容の詳細については、現在検討中ではありますが、来年度当初予算に計上したいと考えております。なお、ガソリン代につきましては変動があります。政府のほうも、また対策をするような話も出ておりますので、2千円の上に、先ほど言いましたように、定期代、それから寮費、下宿代等を付け加えるということでございますので、よろしくお願いいたします。

議長（小田 範博 君）はい。

7 番（高橋 丈一 君）ガソリン代以外もあるようですので、3月の当初予算を楽しみにしております。

それでは、続きまして、大きい2番の関西戦略へ移りたいと思っております。（1）の大阪に県のアンテナショップ、スーパーローカルショップとさとさが、今年の7月末に開店しました。本町はどのように捉えているのかをお聞きしたいと思います。

議長（小田 範博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）おはようございます。高橋丈一議員に御答弁いたします。大阪を含む関西圏には県出身者も大変多く、高知からの距離的にも近いことから、関東よりも親しみを感じる人が多いのではないかと思います。スーパーローカルショップとさとさは、想定以上の来客で、当初見込んでいた来客数を33万人から140万人に、売上げを1.2億円から1.7億円に上方修正したとお聞きしています。先日、産業課長、課員と共にとさとさに行ってお聞きしたところによると、アンテナショップの中でも、売上げ1位は北海道、2位は北陸3県、3位に高知県がつけているそうです。2位に追いつき追い越す勢いだそうです。大阪駅の西隣という立地のよさから、来場者も関西在住の方だけではなく、スーツケースを引きながらの観光客も多く、また、高知県から様子を見に来たという方々までおり、土日であったこともあり、開店前から入口のゲートの前は大行列となっていました。とさとさのオープンは、関西にコネクションのある知事の肝煎りであり、店内の親しみやすい県民性で表現されたポップや豊富な商品数なども相まって、これからの大きな可能性を感じ、期待しているところでございます。以上でございます。

議長（小田 範博 君）高橋議員。

7 番（高橋 丈一 君）答弁どうもありがとうございました。

それでは、とさとさの2番目、とさとさ内での催事は各市町村で個別にできるとのことだが、本町の取り組みはですが、とさとさは催事がで

きるスペースを構えているようです。そして、市町村の催事は、県のほうからウエルカムだと聞いております。町単独でもよいし、複数の市町村が一緒でもよいと聞いております。本町は既に特産品の催事を行ったのか、本町の特産品の知名度アップと売上げが伸びるようにするための催事でもあると思いますが、ここまでの状況と、今後とさとさへの取り組みをお聞きしたいと思います。

議長（小田 範 博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 高橋丈一議員に御答弁いたします。9月19日、20日に、仁淀ブルー観光協議会がとさとさのスペースをお借りして、仁淀ブルー体験博のPR活動を行いました。いの町と本町が同行し、芋けんぴなどを販売しました。11月23日、24日には、越知町単独で越知町山椒フェアを開催しました。サンショウを使った山椒ミートパン、山椒香るパウンドケーキ、山椒麺、山椒七味、塩山椒、山椒の種枕を販売し、初日に完売になった商品もあり、もっと持っていけばよかったと思いましたが、倍持っていけば倍売れるかというところもあり、商売は非常に難しいところです。また、やはり高知よりも関西のほうでサンショウになじみがあるようで、サンショウ好きを自認の方が来店してくださったり、サンショウに対する反応が強いように感じました。現在とさとさで販売されている越知町関連の商品は3種類と少なく、好評であったサンショウの商品を置いてもらえないか聞いてみましたが、とさとさの陳列が現在満杯なので、すぐには無理とのことでした。今後、商品が淘汰されてくれば、今回売行きのよかった商品を置いてもらえるように働きかけていきたいと思っております。来年2月15日、16日も、越知町単独で、越知町文旦フェアを開催するように予約を入れています。文旦の生育状況や今回の販売の反省を踏まえて、PRに努めたいと思っております。以上でございます。

議長（小田 範 博 君） 高橋丈一議員。

7 番（高 橋 丈 一 君） ぜひとも、今後もPRをよろしく願いいたします。

それでは、続きまして、（3）とさとさ以外の関西圏でのイベント販売は考えているのかでございますが、本町は昨年、大阪の梅田のイベント広場で、高知県と越知町と一緒に3日間出展しましたね。その中で、旅サラダのテレビ中継もありました。ちらっと町長も、一瞬映ったと思いますが、売上げもよかったと聞いております。そこで、今後、イベントのチャンス等があれば出展を考えますか。町単独で考えるのか、それとも、今後は仁淀川流域、複数でも考えていくのかも併せてお願いいたします。

議長（小田 範 博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）高橋丈一議員に御答弁いたします。本年度は、昨年度の旅サラダエキスポのような適当なイベントがなかったため、とさとの1回のみとなっています。来年度は、8月に、大阪関西万博会場内のアリーナで、高知県主催イベントが開催されるようになっていきますので、そこへ参加したいと考えています。クラウドファンディングでの寄附金も活用し、また、適当なイベントがあれば積極的に参加したいと思います。それは、仁淀川流域でも、また町単独でも、そのときの状況にもよりますが、両方考えていきたいと思っています。以上でございます。

議 長（小 田 範 博 君）高橋丈一議員。

7 番（高 橋 丈 一 君）それでは、町長にお聞きしたいと思います。今、エリアの話も出ましたが、そういう考えもあるとのことですが、町長は、国道33号、仁淀川改修期成同盟、仁淀ブルーなどでの首長同志はいつも一緒に行動しておりますので、一度話し合いをして準備しておいていただければ、職員もやりやすいと思いますし、もしエリアの場合は、何をしてもコストが安くできるのではないかと思います。いかがでしょうか。

議 長（小 田 範 博 君）小田町長。

町 長（小 田 保 行 君）高橋丈一議員に御答弁申し上げます。先ほど議員が言われましたように、道路にしましても、それから河川にしましても、流域沿線市町村で非常に行動することは多ございます。そのような中で、関西万博が決定しましてから、コロナもちょうど明けのような感じでしたので、今年度、それから昨年度、大阪事務所に出向きまして、6市町村全部ではなかったですけども、今後、流域で積極的にPRも兼ねて販売等もしていきたいというようなことを、大阪事務所長に話してきました。

町 長（小 田 保 行 君）流域沿線市町村で連携をして、今後、関西戦略にも打って出たいという考えは持っております。もちろん単独も考えております。以上です。

議 長（小 田 範 博 君）高橋丈一議員。

7 番（高 橋 丈 一 君）単独であっても複数であっても、職員がやりがいがあってやりやすいように、ぜひともバックアップをお願いいたします。

続いて、（4）の関西圏との観光誘致をどのように考えているのかという質問でございますが、2025年4月には、大阪万博も始まります。多くの方が、高知からもたくさん行くと思われま。本町または流域への本格的な観光誘致は万博後になると思いますが、とはいっても、関西圏には、やはり京都、大阪、兵庫などの有名な観光地がたくさんあります。とてもではないですが、歯が立ちません。仁淀川を中心とした山と

川が豊富な流域ですので、自然を生かしたローカル観光を、関西圏でどう売り出すのかを考えていただきたいと思います。例えばですけれども、これは私の考えでございますが、今年の11月に関東仁淀ブルーの会を開始したようですが、今後、観光誘致はもちろんですが、先ほども言いました物産なども併せて、仁淀ブルーの会関西版を仕掛けてはどうでしょうか。もし開始できるのであれば、仁淀ブルーの会に口コミなどもお願いして広めていただき、少しでも越知町や仁淀川流域に誘客できればと思いますが、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

議長（小田 範博 君）小田町長。

町長（小田 保行 君）高橋丈一議員に御答弁いたします。来年度に向けての一案でございますけれども、関東仁淀ブルーの会のサポーターを対象に、仁淀ブルー体験ツアーを開催して、Uターン、Iターンを考えるきっかけづくりなどを行ってみたいと考えている中で、多くの出身者がいる関西圏へも、そういった働きかけができないかと考えております。また、大きなくくりの中で、観光客の誘致については、仁淀ブルー観光協議会の会があるたびに話していることですが、各市町村が単独で人を呼び込むよりも、仁淀川流域市町村で協力して、観光地、景勝地の魅力を磨き上げ、宿泊施設をカバーし合うなどすることが大変重要だと考えています。来年度、仁淀ブルー観光協議会では、県外へのプロモーション活動、インバウンド観光の推進において、大阪関西万博を見据え、関西方面へのアプローチに力を入れていく計画を立てています。本町も、県や仁淀ブルー観光協議会とこれまで以上に連携し、観光客の増加に向けて取り組んでいきたいと考えています。以上でございます。

議長（小田 範博 君）高橋丈一議員。

7 番（高橋 丈一 君）町長もやっぱりベテランになりリーダー的な首長となりましたので、他の首長をリードして、ぜひとも前に進めていただきたいと思います。それでは、関西戦略はこのあたりで終わります。

続いて、3番目、最後になりますが、大谷グローブです。大谷翔平選手より贈られたグローブの使用状況はという質問でございますが、現在、やはり野球では一番有名な、世界的にも有名な選手です。日本人でも野球を知らない人でも、大谷翔平は知っていると思います。令和6年1月9日に、ドジャーズの大谷投手から全国の小学校に贈られたグローブは、現在どのように使われておりますでしょうか。実は、知らない小学1年生もいるようです。この子たちは少年野球をやっているメンバーの方たちです。また、その親の中にも、知らない、何それという人たちもいました。やっぱり大谷グローブの使用は、野球だけでなくほかのスポーツにも興味を持つと思いますが、教育委員会としてどのように思われますでしょうか。それと、今までにどのように使用してきたのか、また、今後の使用方法もお聞きしたいと思います。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）おはようございます。高橋議員に御答弁申し上げます。今年の1月9日に、大谷翔平選手から越知小学校にグローブが贈られました。このグローブは、現在、職員室で保管し、児童たちが休み時間などに使っております。グローブの使用状況ですが、寄贈いただいた1月から3月ぐらいは、毎日多くの児童が使用していましたが、現在は平均すると週2回程度で、3、4名の児童がよく使用しています。平均とされていますが、毎日のように使用する時期もあれば、学校行事や学年の活動時期により、使用が少なくなる時期もあるためです。1年生が知らないということもありましたが、1年生で野球部を中心に、使いたいと言ってくる児童もおりますが、1年生は南庭のみで遊ぶことになっており、その南庭は狭くてボール遊びを禁止しているため、大谷グローブを使用することはできませんので、2年生になってグローブが使えるのを楽しみにしている子がおります。親も知らないということもありましたが、その小学校での使用とは別に、小学校が冬休みに入る12月20日の金曜日から1月5日の日曜日までは、本の森図書館でこのグローブを展示し、住民の皆さまにもじかに見てもらえるようにします。グローブの横には大谷選手や野球に関する本を置いて、興味を持ってもらうように考えております。今後の使用方法も、できるだけ児童のほうにPRもして、多くの子どもたちに使っていただきたいように、学校と共にPR方法も考えていきたいと思っております。以上です。

議長（小田 範博 君）高橋丈一議員。

7 番（高橋 丈一 君）ぜひ、今後とも、皆さんが使えるようにしていただきたいと思います。私の一般質問はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

議長（小田 範博 君）以上で、高橋丈一議員の一般質問を終わります。

時間的に若干早いですが、ここで10分程度休憩を取りたいと思いますが、御異議ございませんか。（「異議なし」の声あり）9時40分まで休憩をいたします。

休 憩 午前 9時27分

再 開 午前 9時40分

議長（小田 範博 君）再開します。続いて、10番、山橋正男議員の一般質問を許します。10番、山橋正男議員。

10番（山橋 正男 君）おはようございます。議長に一般質問のお許しをいただきましたので、今から一般質問を行います。

初めに、1番の103万円の壁でございます。年収103万円を超えると所得税が生じる103万円の壁、財務省は、103万円を178万円に引き上げた場合、国と地方の税収が7兆円から8兆円減ると試算をしております。その内4兆円の住民税が、自治体の税収減になるとのことでございます。103万円が178万円に引き上げた場合、本町は、今年度と比較したとき、どれだけの減額になるのか御答弁を願います。

議長（小田 範博 君）金堂税務課長。

税務課長（金堂 博明 君）おはようございます。山橋議員に御答弁申し上げます。今回、町の財政に影響する103万円の壁の問題ですが、質問のとおり、年収の壁の103万円を178万円に引き上げた場合の住民税の減収額は、約7千万円でございます。令和6年度の個人住民税、これ定額減税前ですが、1億6,729万6千円の約40%の減収に当たります。次に、令和5年度の町税全体の4億6,427万4千円からですと約15%、令和5年度歳入全体の52億3,677万4千円からですと1.34%の減税に当たります。今回の減収金額の試算条件ですが、令和6年12月2日現在の越知町町民税での税額で、基礎控除額43万円を75万円引き上げて、118万円の試算をしております。以上でございます。

議長（小田 範博 君）山橋正男議員。

10番（山橋 正男 君）今、税務課長より答弁がございましたが、令和6年度の税収1億6千万円の40%、約7千万円の減額になるという答弁でございましたが、7千万円の減額になるということは、なかなか大きい金額でございます。総務課長に質問をしますけれども、この7千万円ですね、もし、例えばの場合でございますけれども、今現在は130万円とか150万円といろんな話がございますけれども、最悪の場合は178万円というような話がでておりますが、やっぱりこの178万円の大きい、103万円から上がるということは、来年度予算の関係で、多少とも住民に、行政サービスが低下するのではないかと考えるわけでございますけれども、住民への影響等が出るのか出ないのか、総務課長に答弁を願います。

議長（小田 範博 君）井上総務課長。

総務課長（井上 昌治 君）おはようございます。山橋議員に御答弁申し上げます。令和7年度予算の住民への影響という部分でございます。現在、令和

7年度予算につきましては、各課から提出を受け、査定を行う段階でございます。まだ国としてどのような制度にするかというところが決定しておりませんので、それを見込んだ予算編成にはなっていないというところではございますが、まず、税務課長のほうから7千万円の減収というところで、歳入の減少が見込まれます。また、この国の歳入であります所得税という部分が減りますと、この所得税を財源としております地方交付税への影響も、非常に考えられる部分でございます。この町の歳入であります住民税、また地方交付税が減収となりますと、例年同様の住民サービスを継続するために歳出予算を確保するためには、不足する財源を、基金等の取り崩しなどを行いまして、住民サービスの低下、影響のないようにしていく必要があるかと考えております。しかしながら、恒久的に財源が不足するということになりますと、基金の投入にも限界がございます。このため、国からの財源措置等必須ではないかと考えております。

なお、現在、国会で協議をしている部分ではありますので、その動向を注視するとともに、慎重な予算編成を行っていきたいと考えております。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）先ほど税務課長から答弁がありました。もう一回、その令和5年度ですね、令和5年度の町税が4億6千万円そこそこの15%の減額でしたね、分かりました。

それでは、2番目の、報道によると11月に行われた全国知事会議では、住民税が減るから財源をしっかりと講じてくれとの声があったようである。今までのように恒久財源の確保を望んでいるとの意見があったようでございますが、全国町村長会ではどのような意見があったのか、出席されておりましたら、町長から答弁を願いたい。それとまた、町長としての103万円の壁についての考えを聞かせていただきたいと思えます。なお、この103万円、上がるということは、国民の大半、60から70%までが賛成ではございますけれども、町として、町長としてのお考えを答弁願いたいと思えます。越知町にとっての財政の関係でございますので、よろしく願いいたします。

議長（小田 範 博 君）小田町長。

町長（小田 保 行 君）山橋議員に御答弁申し上げます。全国町村長大会ではどのような意見があったのかということではございますが、まずそこからですが、全国町村会長からは、冒頭、挨拶の中で、市町村長大会には、国会議員、政務三役含め多数出席いたします。そのような中で、今回の問題については、地方交付税等に非常に影響があるということで、語気荒く、地方交付税を含む財源確保を求めるということを発言され

ました。広島県の坂町長、吉田会長という方でございますけれども、比較的温厚な方で、あまり語気を強くして言われる方ではないですので、多少、今回のことについては、非常に問題だという意識を持っておるということでもあります。そのような中で、今回の全国町村長大会の決議の中では、やはり、町村にとって最重要課題である地方交付税等の一般財源を確保すること、これは当然決議の中に盛り込まれております。この決議を基に、我々は、代表はそれぞれ財務省、あるいは財務大臣に要望に行き、私も今回、そちらのほうに、町村会長と共に、県関係国会議員のほうに要望した経過があります。

それで、町長としての103万円の壁のことですが、議員おっしゃられるように、国民また越知町にも、多くの方がそれはありがたいと考えるだろうと思います。ただ、町長としましては、先ほど総務課長が答弁しましたように、非常に町財源に影響が大きい。このことから、予算編成、非常に厳しくなってくると思います。これはもう全国的な意見でありますけれども、やはり地方交付税を含む財源確保をしっかりとやっていただきたいということ、そのように考えております。以上でございます。

議長（小田 範博 君）山橋正男議員。

10番（山橋正男君）町長から答弁いただきました。大体、なかなか本町、全国的にそうですけれども、地方交付税でやっておるような状態でございます。ちょっと見てみますと、令和5年度の決算では、本町の自主財源が町税、寄附金、財産収入等で21.1%、国からの依存財源が地方交付税、国庫支出金等で64.6%、ほかは地方債、県支出金の14.3%でございますが、完全なる国依存の本町でございます。町長が、今も答弁の中で、また開会日に行政報告で、年明けから予算配分に対し要望を行うとの報告がございました。今の答弁でもございましたが、大変期待しております。国の依存が大変高いわけでございますけれども、今後とも、この財源確保の国に要望等、よろしく願いいたします。

それでは、2番目の道路行政、鎌井田大橋から停留所までの側溝の蓋かけについての質問でございます。今回の工事の延長はどれぐらいか、また、残工事はどのぐらいか、請負金額は幾らであったかの答弁を願います。

議長（小田 範博 君）岡田建設課長。

建設課長（岡田 孝司 君）おはようございます。山橋議員に御答弁申し上げます。本年度の9月に、約140メートルの延長を、請負金額427万9千円で発注済みであり、来年1月14日が工期末となっております。当路線は、令和5年に計画延長約950メートルのうち、曲線部や幅員が狭い箇所を優先に、約160メートルが完了しております。今年度発注分の約140メートルが完了すれば、残りの延長は約650メートルとな

ります。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）今回の側溝蓋かけについては、1年前でございますけれども、自分の質問の中で、鎌井田屯所前の側溝の蓋かけをお願いしますということで、今回一緒にやってくれております。この件については、明治分団前の蓋かけについては、役場の職員でも明治分団の方がおられますけれども、話を聞きますと、大変緊急時に積載車がスムーズに出動できるようになったので、大変喜んでおるということを御報告させていただきます。また、鎌井田地区民としては、ちょうどごみステーションがございます。ちょうどよけ違いになっておりまして、そこがまた側溝の蓋かけができましたので、便利になったと喜んでいたことも御報告させていただきます。この工事は前週の土曜日に完成しまして、本当によくなったわけでございます。ありがとうございます。

今回の質問につきましては、鎌井田停留所から鎌井田大橋までの関係の質問でございます。今、課長から答弁がございましたが、去年は160メートル、今回が140メートル、残が650メートルというわけでございますけれども、来年以降の計画でございますが、どのようになっているのか、もし分かれば御答弁を願います。

議長（小田 範 博 君）岡田建設課長。

建設課長（岡田 孝司 君）山橋議員に御答弁申し上げます。令和7年度以降の計画につきましては、国の内示率によって発注予定の延長や箇所などの見直しが必要となりますが、本件は鎌井田地区からの申請案件でもあり、建設課としても県道18号へアクセスする重要な町道であると認識しておりますことから、令和7年度以降の全体計画の中でも、優先案件として対応してまいります。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）課長に一つ質問をしますけれども、今回、その鎌井田大橋から鎌井田停留所までの分と、それから屯所前の側溝の蓋かけの分、これ金額は一緒かどうか、別々なんですか、御答弁を願います。

議長（小田 範 博 君）岡田建設課長。

建設課長（岡田 孝司 君）山橋議員に御答弁申し上げます。今回の工事につきましては、屯所前の側溝工事と、それから蓋かけにつきましては、請負金額427万9千円の中に含まれております。以上でございます。

議長（小田範博君）山橋正男議員。

10番（山橋正男君）来年以降の計画につきましては、重点的にという話を聞いております。この側溝の蓋かけにつきましては、日ノ瀬水利組合という組合がございまして、その方が側溝蓋かけには大反対でございまして、その側溝の関係については、大変後塵組でございまして、恐らく町としては蓋かけの関係は、もう計画は立てておりましたけれども、この鎌井田線が突然入ってきたもので、今話しを聞くと、今回も400というお金がいたわけですが、ちょっとその地区民との声ですか、そういうことをちょっと言わせていただきたいと思っております。昨年、水利組合の了解を得まして、これ実を言うと森下議員も水利組合の組合員でございまして、森下議員が相当なる力を注いでくれて話しがまとまったようでございます。この側溝の蓋かけについては、数十年前ですか、鎌井田バイパスが完成した後は、県道から町道に格下げになりまして、完全なる生活道のような状態でございます。ところが、現在は、浅尾沈下橋が観光の拠点になりまして、観光客が大変増えたわけでございます。今までの生活道路と違い、その観光道路としての交通量が大変多いわけでございます。地元民に聞きますと、恐らく半数以上、7割くらいには地区民以外、町外、県外の方の車のようでございます。その中で、やっぱり地区民の話の中で、いろんな問題が起きるということは、行き違いで、ほとんど県外の車ばかりなんです。それでなかなか道が分からないので、そのまま突っ込んでくる。こちらから地区民の方が行く、そうしたらなかなか行き違いの中で問題が起こり、トラブル等が起こる。それから、初めての町道に入ってくるわけでございますので、県外の方は側溝に車を落とすんですね。そうしたら、車を落として、こちらから仕事に行っている関係とか、いろんな用事で出ていくときに、車が立ち往生して何もできない状態ということもあります。そのように、なかなかその生活道としてよりは観光道路としての、今、交通量が多いので、ぜひ、先ほど言ったとおり、側溝蓋かけについては、完全にこの鎌井田大橋から停留所までは完全なる後塵組で、途中で入ってきたような状態でございますけれども、その前との関係、生活道路から観光道路になったということも頭に置いて、今後、その取り組みをよろしく願います。残の650メートルが来年度で終われば最高と思っておりますけれども、なかなかそうはいきませんので、今後ともよろしく願います。

それでは、次の観光行政、浅尾沈下橋についてでございます。令和5年度、沈下橋への観光客の推定入り込み客はどのくらいか。本年度11月までの観光客の推定人数を聞く。答弁を願います。

議長（小田範博君）國貞企画課長。

企画課長（國貞満君）山橋正男議員に御答弁いたします。浅尾沈下橋への観光客の正確な数字は、警備員を配置している期間のみとなります。令和

5年度は、ゴールデンウィーク期間9日間で2,427人、お盆期間が6日間で1,934人、合計15日間で4,361人です。平日でも観光客が来ていない日はほぼない状況ですので、推定で年間約1万1,300人と見込んでいます。令和6年度は、ゴールデンウィーク期間10日間で2,646人、お盆期間が9日間で2,838人、合計19日間で5,484人です。同様に、11月末までの推定観光客は1万1,800人と見込んでいます。以上でございます。

議長（小田 範博 君）山橋正男議員。

10番（山橋正男君）実を言うと、この沈下橋そばの推定人数につきまして、私もちょっとその関係といたしますか、沈下橋入口、駐車場前に観光客になごんでもらうというか、見てもらうために花を作っている方がおられます。一年中、四季折々の花を育てていまして、その人に聞きますと、今言われたとおり、年間で1万人以上は来られているということでございます。そうして、沈下橋を見下ろして農作業に従事している方にもお話しをしましたが、同じように1万人以上は来ているだろうという話でございます。大雨などで沈下橋が陥没ですか、浸かった場合でも沈下橋を見に来る観光客が多いという話も、そのバス停近辺の方に聞いても、大雨のときでも沈下橋が浸かっているのを見に来るという、そんな観光地にもなって、大変にぎわいがすごいということでございます。

そこで、2番目の浅尾沈下橋右岸に横倉山自然の森博物館のCM看板を設置してはどうかとの質問でございます。鎌井田簡易郵便局の隣に、猫雑貨店「3匹の猫」という雑貨店がございます。その雑貨店は、浅尾沈下橋右岸のブロック塀にB3サイズの小さなカレンダーを掛けています。その中にコマーシャルを入れていまして、カレンダーにはただ一言、「終わればお立ち寄りください。猫雑貨「3匹の猫」」。店主に聞くと、お客さんはインターネットの方が多くございます。ほとんどが町外、県外の方ばかりというようでございます。その中で、浅尾沈下橋観光客の約2割がその看板を見て、その雑貨店「3匹の猫」に立ち寄るようでございます。店主が「どこから」と言ったら、沈下橋を見に来たそのついでにという看板があったので見に来ましたという話をしてくれました。ここで質問に入るわけでございますけれども、ちょっと調べてみますと、博物館の令和5年度決算で、歳入は使用料、観覧料ですね、が約498万円、町からの一般財源繰入金が2,650万円、雑入が販売手数料等で86万円、こういうその博物館ができて、黒字ということは100%ございません。黒字だったら民間企業が請け負いますので。このような立派なものが出て、大変町民が幸せだと思いますが、この一般財源を少しでも減らすために、この観覧料がほとんど、収入の大部分が観覧料でございます。一般で500円ですか。今その中で、企画課の推定では約1万1千人めど、それから、地区民の関係されている方に

聞いてみますと1万人がということですが、例えば、もし、これの観光客の1万人のうち2割が来た場合、100万円ぐらいの収入増にはなる計算、これは取らぬ狸の皮算用でございますけれども、一応、今言ったとおり、「3匹の猫」なんてほとんど知られていない、ただ看板に僅かB3、本当に小さいところへちょっと書いているだけです。そこでその沈下橋右岸に、立派な看板によろびませんよ、催し物があるとかそういうときに、終わったら博物館もありますからというような看板をしたらどうかというのが、自分の質問でございますが、どうでしょうかね、教育委員会の皆さん。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）山橋議員に御答弁申し上げます。現在、浅尾沈下橋右岸には、企画課が設置した「竜とそばかすの姫」の竜のモニュメントの展示や、鎌井田簡易郵便局での浅尾沈下橋風景印の案内などを貼り付けている掲示板があります。その近辺に、横倉山自然の森博物館のPRができる掲示板を設置したいと思います。浅尾沈下橋右岸には、ほかにも町民バスの看板や、明治地区ぐるみ会が設置した、浅尾沈下橋のできた経緯などが書かれた看板もありますので、景観に注意しながら設置場所を決めたいと思います。この掲示板に、横倉山自然の森博物館の企画展の案内などを掲示して、浅尾沈下橋に来た観光客に周遊してもらえるような仕組みづくりをしたいと思いますので、できるだけ早くに掲示板を設置するようにします。以上です。

議長（小田 範博 君）山橋正男議員。

10番（山橋 正男 君）私も時々沈下橋へ行くんです。観光客の方とお話しをしますが、その中で、皆さんどこからと言ったら、ほとんど県外の方がかりなんです。その中で、ここまでわざわざ見に来たと。「次、あなたたちどうしますか」と聞きますと、「もうそれで終わりです。」それで、私が、いや、こういうところもありますよと言って、博物館の話をする。今、次長が答弁されたように、沈下橋の人气が出たのは例のアニメの関係で、そういうものもありますからと言うと、「ええ、そんなところがあるの」と、「私らは知らなかった」と話をされていましたが、そのように看板を立てて、本当にその民間の関係でしたら、用語を入れるのに、ちょっと何ていうかジョーク的ですが、「終わったら、次、博物館に来てや」とかそういうような言葉をかけたら、その民間用語でやったらどうかなという。そのときも、雑貨店の店長とも話しをしましたが、言葉を入れるのに、固い用語よりは簡単に、一言「来てくれんかよ」というような言葉をかけたほうが、お客さんが来てくれるんじゃないろうかという話しはしていました。看板を早急に立てるということですので、期待しておりますので、今後ともどうぞよろしく願いたい

します。

それでは、最後になりますが、マイナ保険証でございます。12月から健康保険証の新規発行が停止される。既存の保険証では利用できなくなるのか。そして、本町では現時点でマイナンバーカードの保有者は何%かの質問を変えて、越知町国民健康保険の被保険者数とマイナ保険証の登録件数、そして、後期高齢者医療の越知町の被保険者数とマイナ保険証の登録件数はの質問に変えさせていただきます。なお、この件につきましては、課長には変えますというお話しはしておりますので、御答弁を願いたいと思います。

議長（小田 範博 君）小松住民課長。

住民課長（小松 大幸 君）山橋議員に御答弁申し上げます。健康保険証利用の申し込みをしたマイナンバーカード、いわゆるマイナ保険証を基本とする仕組みへの移行により、令和6年12月2日以降は、新たな保険証の発行はされなくなりました。ただし、移行後も、現在お持ちの保険証は、内容に変更がない場合は、保険証に記載されている有効期限まで最長1年、令和7年12月1日まで使用できます。なお、越知町国民健康保険及び後期高齢者医療につきましては、特別な理由のない限り、来年令和7年7月31日の保険証の有効期限まで利用できます。

次に、マイナ保険証の被保険者数、登録数についてですが、越知町国民健康保険につきましては、被保険者数1,180人、マイナ保険証登録者数748人です。ちなみに、登録率は63.39%です。後期高齢者医療の越知町の被保険者数は1,457人、そのマイナ保険証登録者数は781人です。登録率は53.6%です。以上です。

議長（小田 範博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）住民課においては、このマイナンバーカードで大変苦勞されていると思います。今も広報等に出ておりますけれども、マイナンバーカードを持っていない方がおられますが、マイナンバーカードを取得するために、夜間開庁しているとか、また土曜日にも行っていますと言っていますけれども、いまだにこの夜間、それから土曜日の開庁は行っていますか。たしか私、広報で見たと思いますけれども、ほとんど、なかなか住民課の皆さんというか、役場の職員はたまらないと思いますけれども、まあ頑張っていると思いますけれども、今もやっているか御答弁を願います。

議長（小田 範博 君）小松住民課長。

住民課長（小松 大幸 君）山橋議員に御答弁申し上げます。夜間開庁と土曜日の受付ですが、希望者、連絡をいただいて、今現在も開庁しております。

以上でございます。

議長（小田 範 博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）それでは、2番目のマイナ保険証を持っていない人は医療を受けられなくなるかとの質問でございます。よく聞かれるのは、現状では、病院へ行っても受けられないかといって相談を受けるんですけども、それはできますよというお話しをしますけれども、やっぱりそういう不安の方もおられるわけでございますが、マイナ保険証を持っていない人は医療を受けられなくなるのか、御答弁を願います。

議長（小田 範 博 君）小松住民課長。

住民課長（小松 大幸 君）山橋議員に御答弁申し上げます。マイナ保険証をお持ちでない方についてですが、先ほど申しましたが、お手持ちの保険証を使って、今までどおりの医療給付を受けることができます。お手持ちの保険証の内容に変更があった場合や有効期限到来後は、被保険者証の代わりとなる資格確認書が交付されます。医療機関でこの資格確認書を呈示していただくことで、これまでどおりの窓口負担で医療給付を受けることができます。越知町国民健康保険並びに後期高齢者医療におきましても、制度及びシステム等の準備を整え、12月広報、町ホームページでの周知を行い、被保険者の皆さまが安心してこれまでどおりの保険医療が受けられるよう、対応を開始しております。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）山橋正男議員。

10番（山 橋 正 男 君）いろいろな質問をしたわけでございますけれども、その103万円の壁というのは、はっきり答えが出ておりませんので、どうなるか分かりませんが、財政が厳しくなるのは間違いないと思います。それと、鎌井田の側溝の蓋かけについては、大変行政側には御努力をいただきまして、スムーズになっていることを快く思っております。今後とも側溝の蓋かけについてはよろしく願います。教育委員会につきましても、早速取りかかるということでございますので、スムーズな看板設置等をよろしく願います。住民課長につきましても、住民課の皆さん大変苦勞されて、マイナンバーカードの問題も、まだまだされていない方がたくさんおられると思いますが、無理なさらずに、国民がカードを持つのは当然でございますので、御努力のほどをよろしく願います。一般質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

議長（小田 範 博 君）以上で、山橋正男議員の一般質問を終わります。

お諮りします。これより10時40分まで休憩をしたいと思います。御異議ございませんか。（「異議なし」の声あり）御異議なしと認め

ます。10時40分まで休憩とします。

休 憩 午前10時27分

再 開 午前10時40分

議 長（小 田 範 博 君）再開します。続いて、6番、市原静子議員の一般質問を許します。6番、市原静子議員。

6 番（市 原 静 子 君）通告に従いまして、一般質問させていただきます。まず初めに、認知症対策と徘徊対策でございます。通告を読ませていただきます。介護疲れ、介護うつ等が課題となる認知症の人と家族を笑顔にするケア技法の一つ、ユマニチュードに注目をしています。取り入れる福祉施設や病院、教育機関では一般向け講座の実施が広がっていると聞きます。本町もこのケア技法を取り入れているのか。また、講座を開く考えはないのかお聞きをいたします。日本では高齢化が進み、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人に当たる700万人が認知症になると推計されております。ユマニチュードとは、フランス語で人間らしくあるとの意味でございます。今からユマニチュードの意味や検証や改善や効果などを、少しお話をさせていただきます。認知症の中でも、日常生活に支障が出て、暴力的な言動になりがちな当事者と、介護する家族らの信頼関係を構築するのに有効なケア技法だと教えております。具体的な基本技術として4項目あります。「見る」「話す」「触れる」「立つ」。1の「見る」は、相手にできるだけ近づき、同じ視線の高さで正面から見つめてお話しをします。話すのは低めのトーンで穏やかにゆっくりと抑揚をつけ、前向きな言葉でお話しをします。「触れる」は、つかまらず下から支えるように、触れている面積をできるだけ広くつくるようにします。「立つ」は、1日に合計20分間立つことができれば、寝たきりの予防になる。この4つを柱に、あなたのことを大切に思っておりますと、思いやりを伝えることで、数年間ベッドで寝たきりだった人が起き上がることができたとの事例もあります。また、「見る」の動作では、相手に視線を合わせること。「触れる」では、ゆっくりと手を動かすことで相手に不安感を与えないようにする方法、これを取ってまいります。また、家族の介護者や病院、介護施設の職員を対象としたユマニチュードの実証実験を実施した結果、介護者の負担が20%軽減するなどの効果が見られたということでございます。講演会での話の中で、電気や水道と同じように、社会のインフラとしてユマニチュードが使われてほしいと述べたそうです。この技術は、介護者がコミュニケーションを取ることで相手の心を動かすことができる、介護者が認知症を

改善する薬になれるとも話されているそうです。日常生活の中でこそ生かされるもの、毎日毎日の中で培われていくものだと、この技法は、そのようにお話しをされておりました。私たちが、介護する家族の支援というのを大変に思うわけでございます。私の周りにも、最近、前はそんなにも感じなかったんですけども、最近特に、認知症の初めの方、そういった方が大変に目につきますし、耳にもよく聞こえてまいります。その中の方たちは、家族に支えられ、今のところ幸せには暮らしておりますけれども、その中のお1人が、2人だけの生活なんですけれども、行方不明に、ある日突然にいなくなりました。そのいなくなったときに、見つかった後に私に連絡があったんですけども、いなくなったときに、もう必死で探すんですけども、24時間以内に見つかりましたので、それでほっとしたところではございますけれども、その中の友人の方から電話が1本ありました、私のところに。市原さんは今まで、認知症の方たちへの安全を、言わば防ぐための何かの質問をされたようなことが気になっているんですけども、その方法を越知では取り入れていますかということを知りました。やっぱりそういった方たちのその方法を、話はそのときはしたんですけども、介護をする側は大変に不安、行方不明になったときは不安で、もう胸が張り裂けそうな思いで探したということのお話しを聞きましたときに、やっぱり1日1日の信頼関係が、お母さんを早く発見できる、導かせてくれる、いつも2人で散歩に行っていたその場所に、そういうところでおられたということなんです。だから、そういったところでも、ふだんの生活の中での記憶があったんだなということを感じたわけです。それで、やはりこのユマニチュードという方法で、家族の方が、またお勉強をして、家族の方が、また施設やら自治体、また自治体も取り入れてお勉強しているというお話もたくさん聞きました。そのユマニチュードの内容等を本町でもお勉強しているのか、取り入れていらっしゃるのか、また、そういったミニ講座ですかね、そういった形でも取り入れてくださるのかどうか、それをお聞きしたいと思います。

議長（小田 範博 君）西森保健福祉課長。

保健福祉課長（西森政利君）市原議員にお答えします。先ほど市原議員も御説明いただきましたが、ユマニチュードとは、人間らしく優しさに満ちたケアを行うためにとの思想に基づき、知覚、聴覚、触覚等を用いてコミュニケーションを行う、認知症や高齢者へのケアの技法を指します。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱に従いケアを行います。具体的には、相手と視線を合わし、対等な存在として相手を見て、優しく穏やかに話しかけることにより、相手とのコミュニケーションを図り、手のひらを優しく背中に添えるなどをして、ゆったりと優しくスキンシップを行います。また、人間にとって「立つ」ということは、尊厳や人間らしさの象徴ともいえる行為であると同時に、筋肉や内臓など様々な

組織、器官によい影響を及ぼします。このため、「立つ」ということを諦めず、「立つ」ことを意識してケアを行うことにより、本人にとって様々なよい影響を及ぼすことができます。御質問の、本町もこのケア技法を取り入れているのかとのことですが、まず、町内の介護事業所に確認を行ったところ、介護事業所の意見として、ユマニチュードを意識してケアを行っているわけではないが、ユマニチュードの思想や技法は介護ケアの根本的な部分と重なるため、ユマニチュードのケア技法を取り入れているといってもよいのではとの御意見をいただきました。また、講座を開く考えはとの御質問ですが、越知町でも、介護に携わる職員への研修会や、認知症の理解促進のために一般の方を対象とした啓発イベントにおいて、ユマニチュードの思想、ケア技法と重なるお話もさせていただいております。私も今回、この日本ユマニチュード学会のホームページを拝見させていただきました。認定インストラクターという方もいらっしゃるということも初めて知りました。残念ながら高知県内にはいらっしゃらないようなのですが、また、研修等の実施の参考にさせていただきたいと思っております。

今後におきましても、認知症の理解の促進や介護する家族の負担軽減、何より高齢者へ、認知症患者御本人のためになる講演等を企画していきたいと考えております。以上でございます。

議長（小田 範博 君）市原静子議員。

6 番（市原 静子 君）ありがとうございます。分かりやすく説明をしていただきました。やはりそういった介護をする自体が、今言われたように、目の高さとか、相手に携わっていくそういうふうなしぐさ、動作、言葉、そういったことは本当に皆さんが使っておられると思っております。また、こういったユマニチュードの方法等も耳にしていると思うんですね。だから、そういった形を取り入れて、同じような形での、施設等仕事をされているということを知りましたら、それを、ユマニチュードの根本的なことを取り入れなくても、それを主体としたような内容で頑張っておられる、これを私は望んでおります。ぜひ、今からも、チャンスがあれば、今言われましたように、家族の方とかの支援が20%軽減をされたということは、家族の人たちの調査ではなくて、やはり施設等の調査をされたかと思うんですね。その中での20%、支援をする側の軽減があったということですので、やはりこういった形で、研修等があれば、ぜひ研究をしていただきたいと思います。それでは、この質問は終わります。

2点目に参ります。2点目は、認知症徘徊対策でございます。通告を読ませていただきます。認知症徘徊対策といたしまして、9年前にも様々な方法を提案してまいりました。見守りカプセルや杖や靴のかかるとに貼る専用ステッカーの配布、位置情報を検索できるGPS等の活用、

また、新しく、爪Qシールも出ております。認知症になっても住み慣れた地域で安心して家族と暮らせるよう、導入または補助する考えはありませんかでございます。認知症の基本法、これは2023年6月に成立をしております、また、多くの新聞に毎日のように、最近、認知症の方たちについての基本法が立ち上げられたことよっての新聞等が、最近が増えております。最近、10月、11月にも、高知新聞にも1回、2回、3回と載っております。そういった方で、2025年には、65歳以上の高齢者のうちの5人に1人が、約700万人が認知症になると予測されております。基本法には、認知症の人が尊厳を保ち希望を持って暮らせるよう、福祉サービスの提供、家族への支援などを挙げております。やはり認知症の介護の負担をできる限り軽くするためとの思いでの質問でございますけれども、今回、9年前と8年前、私が質問をさせていただきました。徘徊で悩んでいる方たちに、どうですかということの問いかけをいたしました。提案もさせていただきました。そういったときに、認知症の介護の負担をできる限り軽くするためとの思いで、この質問なんですけれども、私の周りにも本当に多く増えております。やはり9年前になりますけれども、そのときには、靴と杖に貼れる専用ステッカーの配布、また、GPS等の補助のお話しもしました。それから2016年、このときにも徘徊高齢者を早期発見するための見守りカプセル、見守りのステッカー、そういったことも話をさせていただきました。こういったことで、少しは、一つか二つは実現しているんだろうとの思いであったんですけれども、まだ実現をしておりませんでした。そのときの、実現をしていると思ったのは、その当時の答弁の内容が、このように答弁していただいているんです。認知症の高齢者宅を専門職が早期に訪問をし、必要な医療や介護サービスに結びつけることが重要であると。そして、医師、看護師、社会福祉士等で作る認知症初期集中支援チームというのが立ち上がったばかりだったんですかね。専用ステッカーが効果的で実用性があるか検証し、導入を考えていくというように答弁をしていただきました。また、2016年ですけれども、これも徘徊高齢者を早期発見するための見守りカプセルや見守りステッカー、GPS等の必要性は十分認識している。家族や関係者のニーズに合わないことから、今年立ち上げる、認知症初期集中治療支援チームで検証し、早期に支援できる体制を準備すると、このように答弁をいただきました。だから私は、早期に、一つ二つは用意をしていただけていると思っていたんです。そうしましたら、身近な方からお電話があつて、そういった中で、たしか市原さんは一般質問で、そういった内容のものを今までもしたことがあるけれども、準備はあるのですかと聞かれたときに、担当課長にお聞きをしたら、まだそういったものも用意をされていなかったということであったので、それでちょっと残念だったんですけれども。その内容は、家族や関係者のニーズに合わないことから、そういったことを差し控えたということが答弁にもあるんですけれども、私は認知症の方が徘徊されるのは、1年に、今のところ1件か2件という

のが現れるんですけども、でも、各家庭で半日間行方が分からなかった、夕方までどこに行っていたのか分からなかった、そういう方というのは結構いるんだと思うんですね。越知町の場合は人口が少ないです。人口が少ないので表に出るまでにはまだまだ1人か2人になると思うんです、年間ね。だけれども、本当に小さい事故というか、そういったことは何件か起きているのは事実なんです。やっぱりそうした中で、1回、2回と経験した人は、何か役場に用意をしていないものだろうか、GPSとかね。そういったものがないだろうかとの思いでおるんだけど、なかなか役場までの問い合わせをするのが遠のくんですよね、どうしても。1回、そういったつらい思いをしたんだけど、それがほっとしたときに、やはりまた足を運ばなくなるというか、そのことも聞きましたけれども、それはさまざま受け止める理由があります。そういった内容で、ステッカー、そういったものも効果的で実効性があるということはあると。検証して導入を考えたいとまで言ってくださったんですけども、今回も、その中の一つでも二つでも用意をして、受け止めていただけるということをしていただけないでしょうか。というのは、新しく、また、爪Qシールというのが出ていますけれども、爪にバーコードのマーク、そういったものを爪に貼って、ちょっと行方不明になったときに、その方に、知らない土地でのところでスマホで照らしてみると、それを役場で頂くときに、住所、名前全部登録しますよ。そうしたときには、すぐにどこの誰々さんというのが分かるわけです。そういった形で、いろんな形で工夫して、徘徊して困っている人に対しての支援する対応が用意をされているのですから、それを一つか二つは用意をしていただいたほうが、いざというときのための、町民が、家族が喜ぶんではないかなと思うわけですけども、そこの辺の考えをお聞きしたいと思います。

議長（小田 範博 君）西森保健福祉課長。

保健福祉課長（西森政利君）市原議員にお答えします。現在行っている徘徊対策ですが、越知町徘徊高齢者家族支援サービス事業、GPSによる位置情報検索のできる機器の貸与を行う事業がございます。この事業は平成25年度より実施しておりますが、利用が少なく、令和元年10月以降は利用者がゼロというような状況となっております。また、徘徊時に行方不明となった場合に備え、家族やケアマネから徘徊高齢者事前登録届出書を役場に提出していただき、徘徊のおそれのある高齢者の情報を警察や消防などと共有しております。ほかにも、あつたかふれあいセンターの職員や民生委員等による定期的な見守り、ヘルパーやケアマネの訪問時に所在を確認する等をし、異変のあった場合は、速やかに保健福祉課をはじめ関係機関と協力し、捜索を行うといったことも実施しております。また、議員がおっしゃられた爪Qシールにつきましては、検討は行いたいと考えておりますが、どの方法も一長一短があります。越知町は山が生活圏のすぐそばまで迫っております。また、比較的規模の大きな

河川が複数町内を流れていることもあり、行方不明の方が人目に触れない可能性もあります。このようなことから、越知町の認知症高齢者の徘徊対策として、どのような対策が効果的であるかは、今後も引き続き検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）市原静子議員。

6 番（市 原 静 子 君）もう何年も前から、見守り、こういった形はたくさん取っていただいております、民生委員やら地域の方々が。だけれども、ずっと見守っているわけではないので、家族の方はその方にはついていきますでしょうけれども、本当に見守り体制だけでは、もう本当に行方不明になったときのことを考えると、どのように1人で歩いていかれたのかということは、本当に分からないわけですね。そうなったときに、今回は、GPSは今取りやめていると。今もしていますか。じゃ、今は、（「利用者がいないだけです」の声あり）じゃ、貸与というか、貸出しをしているということですか。貸出ししているんですね。はい、分かりました。今はGPSだけでしょうか。

議長（小田 範 博 君）質問ですか。

6 番（市 原 静 子 君）質問です。ごめんなさい。

議長（小田 範 博 君）それなら一旦下がってください。西森保健福祉課長。

保健福祉課長（西森政利君）市原議員にお答えします。先ほどGPSにつきましては、貸出しはしておりますが、利用者が今いない状況ということで、答弁のほうをさせていただきました。ほかにも、先ほど説明させてもらった、徘徊高齢者事前登録届出書というものを役場のほうに提出をしていただいて、そちらのほうを関係機関と情報共有をしております。それにより、何件かは自分も出て検索というか、そういったこともさせていただいたこともあります。そういったことを行いまして、認知症高齢者の対応につきましては、させていただきます。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）（「議長、ちょっと休憩をお願いします」の声あり）休憩します。

休 憩 午前11時09分

再 開 午前11時10分

議長（小田 範 博 君）再開します。市原静子議員。

6 番 (市原 静子 君) 分かりました。GPSは貸与していると、そういうことでございますね。次から次に、徘徊をされたときの対応として、爪Qシールもこれもまた検討してみますということございました。そういった中で、やっぱり少しでも多くのものを、困ったということを窓口に来たときには、こういったものもあります、こういったものもありますというようなことも説明をして、安心させてあげるということも必要ではないかと思っておりますので、今後もまたよろしく願いをいたします。

次に参ります。次、3点目になりますけれども、災害時の避難所の環境改善についてお伺いをいたします。通告でございますが、日本では、災害のたびに避難生活の質の問題が指摘されております。被災者が尊厳ある生活を営める最低基準を示す、スフィア基準の理念を自治体でも取り入れる動きが出ている。避難所の環境改善につながれば、価値はあると思う。町の考えはでございます。町の考えをお聞きいたします。

日本で災害が起きるたびに、被災者は避難所で厳しい生活を強いられております。自然災害が激甚化、頻発する中で、南海トラフ巨大地震への危機の意識も高まっている中で、町の災害倉庫も蓄え、備蓄も、必需品等も増えてきていると思うわけでございます。また、災害時に備え、自宅に置く非常用の持ち出し袋に入れる防災グッズ、これも福祉センターにおいて展示をしていただいたおかげで、皆さんも少しずつそろえているという声をお聞きしております。啓発をしていただきました。個人個人でしっかり整えていると思うところでございますが、今回の質問は、スフィア基準を取り入れて、避難所の環境改善ができるのではとの思いで質問をいたします。

先月15日の記者会見、防災担当大臣の方のお話でございますが、避難所の環境について、災害が起きてから48時間以内に、被災者が尊厳ある生活を営める最低基準を示すスフィア基準が満たされるよう、自治体に必要な支援を行っていく考えを示しておりました。新聞に載っております。このスフィア基準とは、皆さんも耳にしておると思うんですけども、少しお話しをします。1990年代にアフリカの難民キャンプで多くの方が亡くなったことを受け、紛争や災害を想定して、国際赤十字などがつくったとされております。これには基本理念というものがあまして、被災者には尊厳ある生活を営む権利、支援を受ける権利があると。そして、苦痛を軽減するため実行可能な手段が尽くされなくてはならない、の2つを挙げて、人道支援における考え方や、最低限度満たすべき基準を記載しておりますということでございます。主な支援分野では、まずお水ですね、これは衛生的なきれいなお水、で、食料、栄養、で、避難所、避難先の居住地で保健医療を挙げております。達成度をはかるための指標として、具体的な数値を示しているわけでございます。例えば、1人1日当たり最低15リットルの水を確保、1人当たりの居住空間は最低3.5平方メートル、トイレは20人に1つ以上、男女は、男女の比率1対3のほか、プライベートの確保など、避難所運

営の際に目安として活用できるということでございます。分かりやすく、イタリアの国では、災害が起き、発災から48時間以内にトイレ、キッチン、ベッドを備えた避難所を開設するとの規定があるそうです。通常は国とボランティアが主体となって行う。このような例も参考になると思うんですけども、このことは、災害が起きると、自治体も、役場の皆さんですね、も同じように災害に遭うわけですよね。やはり避難所なども、そういったお世話をする側の役場の方たちも同じように被害を受けるわけですので、100%皆さんのお世話ができるとは限らないわけですね。そういったことが起きた場合のこと、起きるわけですが、事実。やっぱり前もってこのような準備をしておけば、いざというときには助かったなということでございます。そういった形で、このスフィア基準というのは、すごく大事な内容なんだなということ、私自身も勉強させていただいたことなんです。どれだけ効果があるのかということ、登山家の野口健さん、この方が、登山家だけではなく、富士山の世界遺産にまでもっていった、大変に皆さんに知っている方と思うんですけども、この野口健さんの国内外の防災支援、そういったほうにも大変尽力しております。そういった方のお話しが先日新聞に、このスフィア基準に対してのことが載っておりましたので、ちょっと読ませていただきます。これは、難民キャンプの支援物資を届けるため、東日本大震災の避難所を回ったとき、被災者は床にじかに敷いた布団に雑魚寝の状態だった。紛れようもなく、避難所はこういうものだと思っていたんですけども、国際的な医療援助に関わる専門家の、日本の避難所はソマリアの難民キャンプ以下だとの、その言葉に衝撃を受けたと。2016年の熊本地震では、岡山県などと協力して、車中泊する人たちを受け入れるテント村を、熊本の益城町の総合運動公園内に開設をして、最大時571人が入居した。観察に来た専門家から、スフィア基準にマッチしていると言われ、難民キャンプなどで活用されている国際基準があると知ったと。同じ基準も参考にしながら、約1カ月半運営をし、テント村から緊急搬送される人は出なかったということで、ものすごくいい体験をしたということです。やはり関連死は、災害のときに亡くなる、4倍に近いぐらいの死者が出るというか、そういったことに対しても、いわゆる提言が載っておりました。また、これも言っておりました。雨風をしのごだけではなく、傷ついた人たちの命をつなぎ、少しでも気持ちが前向きになれる空間でなければならない。イタリアでは、ボランティアが避難所運営にすぐに駆けつけ、温かい料理を提供する体制を整えている。海外の事例も参考に、災害を念頭にした日本版スフィア基準のようなルールをつくるべきであるということも載っておりました。そういうことから、越知町も倉庫の備蓄、そういったものを、私たちが今までも質問をしたりしていましたが、やはり避難所のことを今まで大きく見て考えるということが少なかったんですけども、新聞を見たときに、少しでも取り入れてみる価値はあるのかなと思うところがございますけれども、課長の考えをお聞かせください。

議長（小田 範 博 君）片岡危機管理課長。

危機管理課長（片岡宏文君）市原議員に御答弁申し上げます。まず、議員が言われます避難生活の質につきましては、避難所において人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送ることができるかを問われるものと考えます。議員も御存じのとおり、スフィア基準の正式名称は人道憲章と人道支援における最低基準であり、災害や紛争の被災者に対する人道支援活動のために、給水衛生、食料、避難所、保健医療の4分野にわたり、最低限の基準やその目的、効果をまとめたものです。11月には石破首相が、人命最優先の防災立国の構築に触れるとともに、防災庁の設置により、スフィア基準も踏まえて、被災者が安心して過ごせる避難生活環境の整備を進めていくと表明されました。

さて、本町の動きを少し御報告しますと、南海トラフ地震などの大規模災害発生時には、避難生活の長期化が見込まれることから、今年度、指定避難所の環境改善の取り組みとして、網戸の設置や空調機器の導入を検討し、これらの費用を令和7年度当初予算に計上するように準備を進めているところです。なお、財源は県防災総合補助金の活用を見込んでおります。

結論を申し上げますと、避難所の環境改善を目指さなければ、避難者の健康を維持することはできません。避難所生活が長期化するほど健康への負担は増大し、避難者の心身に悪影響を及ぼし、その後の生活再建を大きく阻害する要因となりかねません。このようなことから、今後は、環境改善も含めた避難所の質の向上を図るために、スフィア基準を参考に計画を立てるなどして、避難者の尊厳と健康が維持されることを目標にしたいと考えます。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）市原静子議員。

6 番（市原 静 子 君）ありがとうございました。安心しました。本当に災害はいつ起こるか分からない状態ですので、平時からの備えが大事です。越知町もそういった形で準備をしながら、網戸とか空調関係、本当にありがたいです。しっかりとお勉強していただいて、言わば災害時の避難所の環境改善、それを念頭によろしく願いいたします。ありがとうございました。

それでは、4点目に入ります。赤ちゃん誕生を祝うオリジナルの命名書でございます。通告を読みます。この命名書は、赤ちゃんの名前、生年月日、出生時の身長と体重を印字して交付するもの。A4サイズとはがきサイズの大きさと、デザインは越知町章、よこジロー、コスモスパステルフラワー等をあしらった命名書。これ、町を挙げてお祝いをするという記念交付を提案いたします。

これは、10月頃だったと思います。1人のおじいさんから、聞いてみるけれどもという、初めての方だったんですけども、声をかけてい

ただいたときに、越知町には赤ちゃんが生まれるとお祝い事をあげていますかという単純な質問をしていただきました。そのときは、教育のほうから、木で作られたおもちゃですね、ああいったこととか、そういった本を、3歳以上とか、プレゼントしているとか、そういった内容のお話はさせていただきました。そうしたら、香川県に孫がおると。そうしたら、赤ちゃんの生まれたときに、命名書の話しを、記念になるし、孫も喜んどったと。越知にもあるかなと思ったというようなお話だったわけです。私もそういったものがあるということは聞いておりましたけれども、詳しくそのときに初めて知りました。香川県の東かがわ市では、4種類の命名書というものを選ぶことができるそうです。市民課の責任者の課長は、好評を博しているので、今後も市を挙げてお祝いする気持ちで交付したいと語っておりました。また、三重県では、松坂市で命名書を活用した、もらった方は記念になってよかった、額に入れて飾って、家族で喜んでいるということのお話もありました。やはりこれは、最近の新聞で知ったんですけれども、こういった届出も、役場に来て申請書に書いてどうこうの届出はなくて、全部、今はデジタルというかそういう形で、届出はパソコンかスマホでできるようになっているということも聞きました。でも、何月何日に生まれたということは間違いのないわけですので、聞いた時点でも、役場に来られなくても、生まれたという届出を受ければ、また送ってあげることもできますし、1歳のお誕生日までの申請の時期ということを決めておれば、そういった形が取れるんじゃないかなと思っておりますけれども、本町では、そういった形で命名書はオリジナルでつくるところはないでしょうか、お考えをお聞きいたします。

議長（小田 範博 君）小田町長。

町長（小田 保行 君）市原議員に御答弁申し上げます。東かがわ市の4例のやつを、住民課長からこういうものを行っているということで、東かがわ市ですね。非常に面白い取り組みだと思っております。これを役場、市役所で、印刷をその場でして、厚紙に印刷ということなんですけど、おっしゃるように、その紙を自分で額に入れてということなので、大体役所のプリンターって、そんなに厚い紙は印刷はできないんですよ。こういったことは本当に思い出になると、いいことだと思いますが、非常にいい取り組みだと思いますけれども、参考にさせていただいて、越知町らしいお祝いの仕方、今は御存じのように木のおもちゃのプレゼントと、それから木育への冊子ということでお祝いをさせていただいております。そういった中で、こういうものも非常に面白い取り組みなので、越知町らしい取り組みを、こういったことも参考にしていきながら、今後検討してまいりたいと思います。以上です。

議長（小田 範博 君）市原静子議員。

6 番（市原 静子 君）ありがとうございました。本当に記念になると思います。私に息子が1人おるんですけども、息子のときには、大きなコイが川の上を登っているところの絵の中に名前を書いて、こういったものはなかったんですけども、この件で思い出したんですけども、登りのコイというか、そういうふうな絵の文を、1枚A4の大きさに頂いた記憶があります。やっぱりそうしたものを頂くと、とても大事に、親としても取っておくということをしているんじゃないかと思しますので、大きくなったときに、越知町でこういうふうにして、すばらしいかわいらしいのが頂けたのよということになると、また話しも膨らむのではないかなと思いますので、どうもありがとうございます。検討していただきたいと思います。これで私の質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

議長（小田 範博 君）以上で、市原静子議員の一般質問を終わります。

お諮りします。これより午後1時まで休憩したいと思います。御異議ありませんか。（「異議なし」の声あり）御異議なしと認めます。それでは、午後1時まで休憩します。

休 憩 午前11時32分

再 開 午後 1時00分

議長（小田 範博 君）再開します。午前に引き続き、2番、上岡千世子議員の一般質問を許します。なお、本人からの申し出のパネルの使用を許可します。2番、上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいま議長よりお許しのあった上岡です。これから一般質問を行います。

まず、教育問題です。資料は各紙新聞、クレスコ、各種学習会。10月31日、文部科学省の2023年度の問題行動・不登校調査によると、全国小中学校での2023年度不登校だった児童・生徒が前年度比4万7000人増の34万6,482人だったことが分かりました。高校生では前年度比6,870人増の過去最多となり、小中高合わせて41万5,252人に上りました。一方、小中高と特別支援学校のいじめ件数も前年度から約5万件増加で73万2,568件となって、過去最多であることが高知やその他の新聞に報道されておりました。県教育委員会の話しでは、本県の令和4年度の小中高、支援学校合わせてのいじめ件数は3,749件、令和5年度は3,583件で166件の減少になって

いるが、減少しているからといって安心だというわけではない。なぜなら、件数が多いほうが見守りが行き届いているということになるからという意味深長な言葉を聞きました。

私は、今回いじめの問題と不登校についての質問をしたいと思います。今の教育現場では、学力向上のために過度なスケジュールを学校に取り入れ、教員が忙しさの中で大変な思いをしているという状況があります。一方、児童・生徒は先生が忙しくて話を聞いてもらえない。給食や掃除中、必要以上に会話の制限があり、窮屈である。また、定期テスト、実力テストに加えて学力テストに備えての学習やそのほかのテストなどの競争の中で学校生活に疲れてしまう。そういう現状があることも各紙新聞報道より情報を得たところです。そういう状況の中では、児童・生徒指導として日々共に過ごす児童・生徒のニーズをよく知る現場教員ならではの専門性を果たして教員が発揮できるのかが問われています。学校が世の中の変化とともに、新しい指導の在り方や報告書の作成、学力向上などに重点を置き過ぎると大事な児童・生徒のほうに視点が向かなくなるのではないのでしょうか。本来、児童・生徒は友達や仲間、教員とのつながりの中で培われるはずの人間関係や相手への思いやりを学び、学校の中で共に育ち合う関係が望ましいと思うのですが、いつの間にかそれが失われていっているのではないかと。そういうふうにも考えます。学校現場の中で教員が忙しければ、それだけ児童・生徒とのコミュニケーションも十分には図れません。児童・生徒がけんかをしたりいさかいをしたり、そういうことはしょっちゅうあると思いますが、これ以上はやってはいけないという手加減を学び切れていない子どもたちの行動がいじめという形になって表れてくるのではないかと。そういうふうにも考えます。いじめ問題や不登校などは、格差社会や社会不安、家庭問題などの要因もあるかと思いますが、教育の在り方とも深く関わっている部分があると思います。新聞で報道された不登校やいじめ件数が本県では1年間で減少しているとはいえ、県の話にあったように安心できるわけではないのではないかと。そのように思います。今年いじめ予防を含め、小学校、中学校では学校独自の取り組みとしてどのようなことをしているのでしょうか。お伺いします。

議長（小田 範博 君） 織田教育長。

教育長（織田 誠 君） 上岡議員にお答え申し上げます。いじめ予防として、小学校、中学校での独自の取り組みということですので、まず小学校は、仲間づくりとしまして、縦割り班による活動や異学年交流を実施しており、日常的に異年齢集団での関わりの場を持たせること。協力することの大切さやお互いを思いやる心を育てるとともに、集団づくりとリーダーの育成につなげております。高学年は、下級生のお手本になる自覚や責任を持ち、下級生はみんなで協力することの大切さを学んでおります。

次に、自分や友達を大切に、みんなが明るく楽しい学校生活を送るとともに、褒められることを経験することで自己有用感や自己肯定感を感じ、自尊感情を高めるために「ありがとうの木」の取り組みを平成28年頃から実施しております。これは、感謝の気持ちを葉っぱの形をした学年ごとに色分けされた色画用紙に書き込み、担任が書かれた内容を確認し、職員室の提出箱に入れます。その後、教頭の確認後、担当の委員の児童が選んで昼休みに放送で紹介するとともに、児童玄関に掲示しております。また、全ての学級において5月に学級アンケートを実施して課題を洗い出し、課題解決に取り組み、再度10月と1月に学級アンケートを実施し、PDCAサイクルを回して集団力の向上に努めております。

次に、児童理解といたしまして、QU調査を年2回実施し、個人対応及び学級としての集団対応につなげております。生活アンケートを年2回実施し、全児童に対して担任による個人面談を実施しています。また、3年生から6年生はスクールカウンセラーによるプレカウンセリングを実施しております。支援を要する児童への対応や学級の困り感への対応について、年3回専門家に児童・生徒全員を見てもらい、助言をいただいております。そして、毎週教職員に情報共有をし、支援会等をスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを交えて実施しております。事案により町の福祉担当職員も参加しております。教職員の研修等といたしまして、学級力向上、特別支援教育、人権教育についての学習会を実施しております。毎月1回いじめ未然防止委員会を実施し、小学校のいじめ防止基本方針の情報共有や対応策を協議しております。児童の学習及び保護者への啓発といたしまして、外部講師を招いていじめ防止教室と情報モラル教室を実施しています。人権道徳参観日を年2回実施しています。人権標語を作成して越知町文化祭にも出店をしております。中学校につきましては、生徒理解としまして、日々の朝の職員会において生徒理解のコーナーを設け、1年生、次に2年生、そして3年生と生徒の欠席状況や生徒間の人間関係上のトラブルの有無や指導の経緯を報告し合い、情報共有に努め、日々の学校生活の指導等に生かすようにしております。級友調査や生活アンケートを年2回実施しております。支援を要する生徒への対応や学級の困り感への対応について、年1回専門家に生徒全員を見てもらい、助言をいただいております。

次に、校内支援会等といたしまして、校内支援会を不登校生徒や特性のある生徒、問題行動や人間関係上のトラブルまで含め、毎週1回対象を絞って、今週は特別支援学級、来週は1年生の学年というふうに生徒の様子や課題、現在取り組んでいること、今後の対応、誰がいつまでに何をするかと細かく内容を分け、分析や改善の課題解決のための協議を行っております。ここでのメンバーは、校長、教頭、各学年担当教諭、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、または町の福祉担当職員です。決定事項は、必ず翌日の朝の職員会で全体共有し、抜かりや指導のず

れないように取り組んでおります。月2回程度開催している事務職員や学年代表、生徒指導も含めた会議でも学年や気になる生徒の情報共有と指導に関わることや解決、改善策を協議しております。

次に、いじめ対策組織として日々の学校生活の見取りや保護者からの情報提供や訴え、学校生活アンケートなどからいじめ事案に関わる内容を取り上げ、事実の確認、いじめ防止推進法に照らし合わせた事案のいじめに係る判断、担当や学年団の問題解決に係る対応や取り組み等について協議し、取り組みを進めております。本年度は生徒の保護者からの訴えに基づき、1件速やかにいじめ対策組織で対応し、保護者の協力も得ながら問題の解決、いじめ事案の解決につなげることができており、現在も経過を観察しております。

教職員の研修及び生徒の学習につきましては、教職員は夏休み期間に中学校のいじめ基本防止方針等の学習会等を行っております。生徒は道徳の授業の中で、いじめ防止等について学習しております。また、月1回程度開催している全校集会では、仲間づくりのため交流タイムを実施しており、支持的基盤を持つ集団を育成するための取り組みであります。なお、この取り組みは生徒会のメンバーが自主的に考え、提案したことであり、学年の壁を超えた全校での仲間づくりに貢献しているとのことでもあります。以上が小中学校で行っているいじめ予防の対策でございます。以上でございます。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいまの教育長のお話を聞いて、やっぱりきちっとやっているなということが詳しく分かりました。私も学校のほうへも行ってお聞きしたこともありますし、小中校長先生のお話しもお聞きしたこととも合致しており、とてもよく調べ、先生のことをきちんと調べていただいたと教育委員会のほうには感謝しております。また、いろいろなことがありましたら、いろんなことについて御協力いただきたいと思います。思っております。

では、2つ目です。現在、小中学校ともに不登校児童・生徒はそれぞれ何名いるのでしょうか。また、担任と不登校児童・生徒の対話ができるような環境づくりはしているのでしょうか。お伺いします。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）上岡議員に御答弁申し上げます。現在の不登校児童・生徒の数ですが、小学校が1名、中学校が9名です。

次に、担任と不登校児童・生徒の対話ができるような環境づくりですが、不登校の児童・生徒への対応は担任だけではなく、学校として対応

していますので、担任以外の教職員も含めた対応を答弁させていただきます。小学校では、毎日養護教諭が出欠確認及び登校を待っていることを電話で伝えており、毎週金曜日には担任と養護教諭が家庭訪問をして学習プリントを届けています。また、スクールソーシャルワーカーも家庭訪問を行っています。中学校では、学校、教職員と生徒との関わりと関係性をなくさないようにするために電話連絡や3日欠席が続けば家庭訪問をするようにしています。また、対話ではありませんが、オンラインでの授業配信を行い、家庭で視聴できるようにしています。そして、登校してきたときの居場所として、校舎内の空き教室や特別教室を利用して担任だけではなく学習支援員が教員の手薄なところをフォローして生徒に対応をしています。以上です。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）小学校は不登校児童が1名、中学校になると9名ということで、中学校になるとやはり不登校生徒が増えてくるなというように感じられました。その取り組みとしては担任以外のいろいろなソーシャルワーカーだとかいろいろな方が入って児童・生徒の家を訪問したりとか、あるいは家庭学習ができるように授業の内容などをきちんとラインで送ったりとか、そういうことをしておられるということで、なかなかいろいろと研究しておられるなと思うところですが、中学校9名というのはかなり多い率じゃないかと思うんですけれども、それはどのような、もし原因があるとすれば、あるいは考えられることがあるとすれば、どういうことがあるんでしょうか。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）上岡議員にお答えします。あまり細かい説明をすると、ちょっと個人の特定につながると思いますので、大きく説明しますと、やはり小学校から中学校への環境の変化、それから授業についていけないとかいう理由があるのを把握はしております。以上です。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）小学校から中学校への移行ということになると、かなり学習の幅、あるいは思春期にかかるということでその内容が同じではあるとは考えられませんし、中学校になるといろいろな思春期の問題もあり、とても複雑な内容を、家庭環境とかいろいろなことが混じってきますので、とても複雑になってくるということは分かります。そういうわけで、ソーシャルワーカーとかいろいろな方が入ってくださっていると思うんですけれども、中身は言えないということも分かるんですけれども、なるべく不登校が悪いというわけではない。今は、不登校でも構わないと。家でも学習はできるんだと。けれども、中学校、小学校というのは公教育でありますので、そういうところではやはり学校の教員や

らスクールソーシャルワーカー、あるいは職員、全ての人が一丸となってそういう教育対策に力を注いでいただきたい。そういうふうを考えます。

次の問題にいきます。次は、同じ教育問題にしても環境のことです。体育館へのエアコンの導入について質問をしたいと思います。ここ数年で気候危機による温暖化はだんだんと強まり、洪水や山火事、ハリケーンなど世界中で多発しております。そのため、人間生活や生物界にも多くの影響が出ていることは御承知のとおりです。年々気温の高い日数が増加していくことで、人々の働き方や児童・生徒の戸外での活動が制限されるようになります。特に暑いときには体育館でも熱中症が多発し、通常の体育ができないということも起こってくると思います。熱波や高温で児童・生徒が体育館でも通常の体育ができなくなることも考え、体育館にエアコンを入れることはできないでしょうか。体育館は避難所ともなり得るため、クーリングシェルターとしても活用できるのではと思いますが、いかがでしょうか。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）上岡議員にお答えします。確かに今年の夏の異常な暑さで熱中症アラートも度々出るなど、体育館での体育の授業ができないこともありました。全国の公立小中学校施設における空調、冷房設備の設置状況は、令和6年9月現在で18.9%となっており、高知県で見ると5.7%とまだまだ進んでいないのが現状です。現在、国の令和6年度補正予算案の情報収集をしており、体育館にエアコンを入れることを研究はしているのですが、エアコンの導入には多額の事業費がかかります。エアコン設置に係る事業費は、まだ算定はしていませんが、他市町村の事例を見ても、工法にもよりますが、小学校、中学校合わせて約2億円に近い事業費となる可能性があります。その予算に対する補助金は事業費に見合う額にはまだまだ少なく、その上、ランニングコスト、電気代や保守管理など維持管理にかかる経費も莫大な費用となります。また、今年度は中学校の非構造部材耐震化工事をしておりますし、来年度は小学校の非構造部材耐震化工事を行う計画があり、小学校、中学校ともに大型事業を行っている最中ですので、エアコンの必要性は十分承知していますが、なかなか財源が厳しいところがあり、すぐにはできないのが現状です。ただ、今後も国の動向を注視し、エアコン設置の研究は続けていきます。以上です。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）いろいろな世界の状況を見ると、かなり大変なことだろうなと思っております。その暑さ対策ということに関しては、この議場でも何回も暑さ対策についてはいろんな方向から出てきましたが、児童・生徒のことですので、ここで1回で諦めるというわけにはできま

せんで、また折々に触れて、また私のほうとしても質問させていただきたいと思いますが、なるべく御尽力をお願いしたいと思っております。以上で教育問題のほうは終わります、次に、歯科医の派遣の問題について質問いたしたいと思っております。

現在、歯科医派遣は歯科医師の不足や人口減少などにより、特に中山間部などへの派遣は困難であるとの話しでした。とはいえ、町内の歯科医不在は住民にとっては苦痛でもあり、かなり不便であることは事実です。何らかの方法で派遣が可能になるまでは、町の補助が必要になってくると思います。9月議会の答弁では、町内の歯科医を受診していた人々に対して診療所がなくなってからの対応、受診控えなどが発生していないかの調査中であるとの答弁でした。そして今後、他市町村への通院を、通院支援を含めて検討していくというお話を聞かせていただきました。その後、保健福祉課で話しを聞いたところは、調査を含めてほぼ分かってきているということで、今のところ歯科医師の派遣のサポートについては、やはりこれは困難であるが、通院支援は可能になってくるというような話しでした。町内の診療所を利用していた人々の対応とか、受診控えとかの調査についてはかなりもう期間が長くなっているのです、どんなふうになっているかと思うんですが、町内の歯科医を利用していた人々に対し、歯科医がいなくなってからの対応や受診控えなどについて調査中とのことでしたが、調査結果というものはどんなふうに出たのでしょうか。お伺いいたします。

議長（小田 範博 君）西森保健福祉課長。

保健福祉課長（西森政利君）上岡議員にお答えします。まず、今年10月に実施した総合健診の際行った歯科受診アンケートの結果について御説明をさせていただきます。このアンケートは総合健診の受診票に同封し、受診日当日に回収させていただきました。回答数は532名となります。無記名のアンケートですが、年齢、性別、地区名をお答えいただき、設問は大枠で4問を設定して行いました。

大枠1つ目の設問として、「あなたは歯科受診をしていますか」の問いに対して、「以前から町外の歯科を受診している」、「以前は町内の歯科であったが町内の歯科医院閉院後は町外の歯科を受診している」、「町内の歯科医院閉院後は受診していない」と3択で選んでいただきました。「以前から町外の歯科を受診している」を選んだ方は192名、36%、「以前は町内で閉院後は町外の歯科を受診している」方は104名、20%、「町内の歯科閉院後は受診していない」は204名、38%、無回答32名、6%でありました。「町内の歯科医院閉院後は受診していない」204名の方には理由も聞いており、3択ですが、「受診の必要がない」方が111名、55%、「受診したいが町内に歯科がないため」が61名、30%、その他が13名、6%、無回答が19名、9%でした。

大枠2つ目の設問は、通院方法の設問です。通院していない方は通院すると仮定して回答をいただきました。5択で選んでいただき、複数回答可としております。自家用車、自分の運転が363名、62%、自家用車、家族、友人の運転が76名、13%、バスが54名、9%、タクシーが49名、8%、その他が14名、2%、無回答が33名、6%です。

大枠3つ目の設問は、「歯科医院閉院について町に行ってほしい対策はありますか」の問いに、「ある」が339名、64%、「ない」が128名、24%、無回答が65名、12%でした。「ある」とお答えいただいた339名に3択で施策を選んでいただき、「町外の歯科医院への通院支援」が25名、8%、「新たな歯科医院の誘致」が286名、84%、その他が1名、無回答が27名、8%でした。

4つ目として、御意見、御要望を自由記載していただき、68名の方が記載していただいております。

次に、越知町の国民健康保険、後期高齢者医療の被保険者の歯科受診状況を住民課保険係と高知県後期高齢者医療広域連合に御協力いただき、令和4年度、令和5年度、令和6年度の診療月ごとのレセプトの件数などの情報提供をいただきました。まず、国保のレセプトの件数状況ですが、令和4年度、令和5年度の一月平均がそれぞれ135件で、令和6年4月以降の各月の件数が、4月が121件、5月が125件、6月が117件、7月が105件となっています。

次に、後期高齢者医療のレセプトの件数の状況ですが、令和4年度、令和5年度の一月平均がそれぞれ131件で、令和6年4月以降の各月の件数が4月が93件、5月が87件、6月が111件、7月が105件となっております。以上が調査した結果となっております。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

- 2 番（上岡 千世子 君）ただいま課長から答弁がありました。大枠のところでは言われましたが、かなり高齢者、そして国民健康保険を使っている者、そして総合健診のときに来ていた人たち全て、そういうふう聞いたんですけれども、いろいろな立場の人たちからの回答をいただいたということはよく分かりました。私ちょっと考えたんですけれども、以前町内で受けていなかった、ほかの市町村へ行っていた人たちが今、言うたら今も町外行っているという人たちはもう対象ではなかったんですか。今まで町内で歯科医を受診していた、通院していた人がその後の対応がどうなっているかという調査ですよ、をしたと言われませんでしたか。そうじゃない。全部それは全部の対象になるということですか。そしたら、そういうことではなくて、町外へ行く人は全部が対象になる。高齢者。（「小休」の声あり）

議長（小田 範博 君）小休をします。

休 憩 午後 1時38分

再 開 午後 1時38分

議 長（小 田 範 博 君）再開します。西森保健福祉課長。（「小休してください」の声あり）小休します。

休 憩 午後 1時39分

再 開 午後 1時41分

議 長（小 田 範 博 君）再開します。上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）町内、町外を問わず町に住んでいる方の診療と、通院ということに対しての調査であったことがはっきりと分かりましたので、ありがとうございました。

その次に、2番目の質問ですけれども、本町から他町村への歯科医に通院する人々の支援を考えるとの話がありましたが、その内容はいかがでしょうか。

議 長（小 田 範 博 君）西森保健福祉課長。

保健福祉課長（西森政利君）上岡議員にお答えします。9月の答弁とちょっと同様の内容になりますが、今回のこの調査結果を精査して、また財政等の財源も含めて今後の必要な対応、支援については現在検討しているところでございます。また、結果につきましては、何とか今年度中には示したいと思っているところでございます。以上でございます。

議 長（小 田 範 博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）今の結果を基に精査をし、それから後財源についての検討をすると。財源については、どんな質問を問わずいろいろとかなり厳しくなっておるということは分かっておりますけれども、住民の願いでもありますし、命に関わることでもありますので、なるべく早期の検

討、そして財源も大事だろうとは思いますが、住民の願いをなるべく早くかなえるべく頑張っていたきたいと思います。

次に、3つ目の質問事項に入りたいと思います。3つ目は、町なか型複合コミュニティセンターです。9月議会の答弁では、町なか型複合コミュニティセンターは集落や高齢者のコミュニティーに限られたものではないと理解しており、県の人口減少対策交付金の充当、こういうことも考えられますが、ほかのもっと有利な交付金、それも探り、町に必要なものを見極めていく、それが重要であるとお話でした。本町では圧倒的に多い高齢者が生き生きと活動できる場所がないこともあり、高齢者に限らずほかの年代層の人々の活動、子どもの居場所ともなる複合コミュニティセンターは重要な施設となる可能性があります。佐川町や仁淀川町では町なか型の集落活動センターの一つが町なかにあり、中高年や高齢者などいろんな人々が活用し、町の活性化につながっています。本町の町なかは一步裏に入れば空き家が多く、草も伸びていて寂れていました。これ以上寂れていかないうちに、早期に町なか型複合コミュニティセンターの設立が必要であると考えます。現在は高齢者が長く元気に生きられる長寿社会でもあり、医療のほうではなくて長寿社会として高齢者が生き生きと活動できる、そういうところを目指して頑張っている自治体もたくさんあり、70になっても働ける人は働けるようになっている自治体もあります。町なか型複合コミュニティセンターの設立は高齢者の利用に限ったことではないですが、高齢者がコミュニティセンターに集うことによって生きる意欲を向上させ、人とのコミュニケーションを取ることで家に籠もりがちだった当事者の意識が、意識の活性化にもつながると期待しているところです。町は大きなプロジェクトとしてサテライトオフィスの誘致や空き家活用、移住促進のための住宅供給、コミュニティーの充実などがあり、複合コミュニティセンターも併せて優先順位を検討していく、こういう話でした。9月議会では、町内に必要なプロジェクトについて優先順位を考えているということでしたが、優先順位は何を基準としてどのようにして見極めていくのでしょうか。お伺いします。

議長（小田 範博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 上岡議員に御答弁いたします。最も優先すべきは町の人口減少対策にあると考えています。第2期越知町まち・ひと・しごと創生総合戦略おち家の挑戦の策定の趣旨に掲げている移住・定住対策による社会移動の増加、安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる環境整備などを基本に人口減少を少しでも緩やかにするため取り組んでいる最中です。その中で、現在、県に人口減少対策総合交付金事業計画の申請前の県のヒアリング段階であり、その内容については全員協議会でまた御報告させていただきたいと思っておりますので、いましばらくお待ちいただきたいです。優先順位は、1、まず事業の必要性、次に財源が確保できるか。3番目に地域間の公平性を考慮しています。以上でございます。

議長（小田 範博 君） 上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいまのお答で、私も先ほど言いました移住・定住対策ですか、それとか人口減少を止めるための総合交付金があるとか、とにかく最も優先するのは少子化対策であると言われましたが、それでは今までにずっと働いてきた高齢者の方々ですよね。多い高齢者の方々、それがますます多くなる。それが別に増えるというわけではなく、そういう若い人がいなくなるから増えるという、そういうことなんですけれども、そういう高齢者が今まで町に貢献してきた。その方たちが自分たちの集うところ、また子どもたちが居場所となるところ、そして、またあったかふれあいセンターのようなところだとか、いろんな要求を基に複合コミュニティセンターというものを要望しているわけです。それは先ほど言いましたように、もちろん若い人の移住が最優先であろうかとも思いますけれども、それとの両輪がなくては町の存続は難しいのではないかと。私は、町の中で一歩、先ほども言いましたが、裏に入ればもう本当に空き家はいっぱいあります。草ぼうぼうのところもあります。この前に私たちが視察に行った公園ではタヌキも出てきました。そういうふうな町のことを考えるとき、やはり両輪でいくことが私は必要だと思うんです。だからぜひ町なかの複合コミュニティセンター、佐川町や仁淀川町がやっている、そこへ越知町の人も行っているんです。行くところないんだって。行くところがない。私たちがやりたいけどやれるところがないから、何か行っておる人がいるよと、こう言われたんです。佐川町のほうに行っている人。そういう状況の中でこれをそのまま見過ごしていく。これはちょっと私はあまりにもかわいそうじゃないかと。そういうふうに分たちももう5年たったら高齢者の仲間入りです。その人たちと一緒に。どこへ行けるのか。どこへ行って自分たちは充実した生活を送るのか。そういうふうに考えますので、ぜひ早くそういうふうなことも審議に上らせていただいて、考えていただきたいということを思いました。

次、続いて2つ目ですがいいでしょうか。

議長（小田 範博 君） はい。（「答えていいでしょうか」の声あり）

2 番（上岡 千世子 君） 答えて構いません。構いませんって言われなかった。失礼しました。どうぞお答えください。すみません。

議長（小田 範博 君） 上岡さん、ここ一般質問の場ですので、必要な答えを求める場でございますので、答えの必要ない発言、極力控えてください。町長。

町長（小田 保行 君） 私のほうから上岡議員の今のお話しについて答弁させていただきますが、まず、大事なことは若い者のことだけ考えて、高齢

者のことは全く考えていないようなお話しでしたけれども、全くそういうことはございません。いろんな事業をやっているのは御承知のことやと思いますので、そこは誤解のないようお願いしたいと思います。

それと、佐川町、仁淀川町、すごくようやりゆうということ、両町の町長に私から伝えておきますけれども、越知町の町民の方が佐川町へ行かにかいかん、どういう形で行きゆうのかという事例にもよると思うんです。越知町であれば、例えばサークル活動であれば、文化推進協議会があって、そこに加盟をしてやられている方もおりますし、一方で、いろんな好きなことを町内でやられている方もいらっしゃいます。町として、この町なかの御質問のコミュニティーについては必要でないとは思っていません。ただし、空き家がある、空き家があるというお話でしたけれども、確かに空き家があって、それを有効に活用したいと思っていますので、だからそういった規模によって随分違ってくると思いますので、この町なかについても全く検討をしていかないということではないですので、9月の段階で12月に3カ月で、はい、決めましたというような、そういった逆に無責任なことはなかなか言えないことでもありますので、そのあたり御理解をいただいた上でお願いしたいと思います。以上でございます。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいま町長が言われましたことの中に、高齢者のことを考えていないわけではない。それは分かります。それと、活動センターのようなところはやはり必要であると思うので、それを別に必要でないと思うちゅうわけでもない、こういうお返事でしたが、3カ月ではい、それを造りますとは言えません。そういうことは分かります。分かりますけれども、やっぱり気長く私たちが住民の方の要望をやっぱり言うていくこと、そして町も一緒になって考えていくこと。これは必要じゃないかなと思います。私は、議員としてこの前に行ってきました。島根県と岡山県。両町とも町長、町が中心となって住民のサービス向上、そしてそのサポートを極力やっていくんだということを議員皆さんが知っておられる周知のところですけども、そういうふうな形をなかなか取りづらくなってきているということも分かっております。なかなか予算の問題とか、今世界中の情勢の問題とか、いろんな要素がいっぱい絡まり合って大変だとは思いますが、やっぱり町と住民との距離、そして町はこうやっていくんだ、そうしたら住民もこういうことをしてほしいというような、ぜひそういう対話、話し合い、そういったこともしていったらどうかと提案したいと思います。

では、2つ目にいきます。2つ目のことですが、本町のように人口減少が進み、過疎化が深刻な状況であるとき、町なか型複合コミュ

ニティセンターについては、緊急度と重要度を表すマトリックス表というのを使って優先順位を考えてはどうかと思いました。なぜマトリックス表を出してきたかについては、9月議会で答弁の中に優先順位という言葉があったからです。優先順位について調べたところ、優先順位には緊急性、重要度などが出てきました。それで、ビジネスなどでは効率的に仕事をこなしてかつ生産性を上げることが課題となりますけれども、そんなときに優先順位をつけることが必要になるそうです。ビジネスとは違った観点や指標での取り組み方になると思いますが、企画課においても本町に必要な優先順位があって先ほど今伺いをしたところです。私は、ちょっと調べたことについて持ってきたんですけども、こういうふうなマトリックス表というものがあります。これは、マトリックス表にはT型、Y型、L型というのがあるんですけども、ここではL型のマトリックス表を見ていただきたいと思います。マトリックス表には縦軸に緊急度、横軸に重要度を取り、1から10まで縦横に取っております。町の考えているプロジェクトの優先順位については企業などでもよく使われる手法として今言ったようにマトリクス図があるのですが、人口減少に伴って緊急性や重要度を分かりやすく図式化するものでもあります。町なかの複合型コミュニティセンターの緊急性や重要度はどれぐらいになるかなと思ってこの表をつくってきましたが、今これこれということではできないと思いますけれども、このような指標の仕方もあるということを考えおきいただいて、また複合型コミュニティセンターについても検討を審議よろしくお願ひしたいと思います。何点かになるか言えたら言うてもらいたいですけれども、まだそこはあれですかね。

議長（小田 範博 君） 質問でしょう、今の。

2 番（上岡 千世子 君） はい、それは質問です。

議長（小田 範博 君） 答弁求めますので。

2 番（上岡 千世子 君） いいです、はい。

議長（小田 範博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 上岡議員に御答弁いたします。私が考えていたマトリクス図はちょっとそれとは違ひまして、ちょっと型が違ひと思います。

4つに割ってというマトリクス図をちょっと描いていました。町なか型複合コミュニティセンターをそのマトリクス図に表すと、重要度は高く緊急性はやや高い、右上の第2象限に位置するのではないかと考えます。ただ、9月議会でも御答弁させていただいたとおり、平地が少ない本町にとっては土地の購入や町内の施設の配置やバランスなど様々なことを熟慮する上での実施が必要となります。建設してからやっぱり向こう

がよかったというような失敗はできません。資金がないとプロジェクトを進めることはできず、それも全額町の単費ということはあり得ないことです。そのため繰り返しになりますが、町の財政負担が少しでも軽く済むようにデジタル田園都市国家構想交付金や集落活動センター推進事業費補助金なども視野に入れ、有利な補助金を探っている最中です。どのプロジェクトになるにしても、必ず土地の購入や建物の改修をするなど億単位の資金が必要になると思います。よって、マトリクス図だけでは表せないところもありますので、御理解をいただきたいと思います。以上でございます。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいまの答弁では、なかなか予算的な財源とかいうことで難しいと、これはもうずっと前からそれは言われてきていることだというふうに私は記憶しておりますが、大変だと思わなくてはけれども、そういうことを考えていただきたいと思っております。

3つ目の質問にいきます。これも9月の答弁にあったので、早いと言われるかも分かりませんが、コミュニティーの活性化については検討中であり、町民や議員と相談したいという答弁でしたが、相談したい町民というのはどのような人が対象になるのでしょうか。また、その期日などは検討をしておられるのでしょうか。お伺いします。

議長（小田 範博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）上岡議員に御答弁いたします。毎年2回開催されているまち・ひと・しごと創生推進会議の委員にはもちろん、例えばその施設の一部を商業のことに活用するというのであれば、商工会の会長など事業の中身によって各種団体の長には御相談したいと考えています。また、期限については、これも9月議会で御答弁したように、本町にとって大事なプロジェクトを見極めることが重要であると思っておりますので、いつまでということのはっきり申し上げることができません。土地や建物を購入する場合は、売買のタイミングというものがありますので、数年かかる場合、逆にとんとんと事業が進むこともあるかもしれません。先ほど御答弁したように億単位の資金が必要な事業であるため、一度走り出したら後戻りはできません。9月から3カ月程度で方向性を決める事業ではないことを理解していただきたいと思います。また経過につきましては、担当課のほうで対応させていただきます。以上でございます。

議長（小田 範博 君）上岡千世子議員。

2 番（上岡 千世子 君）ただいまの答弁の中にあつたことで、大体の見当はつきますけれども、答えとしてはなかなか難しい、いつになるかは分から

ないということであったと思います。これからもまたすぐにはいきませんので、また何カ月かしてこのようなことを諦めずに、私はやっぱり住民のために頑張っってやっていきたいと思いますので、これで私の一般質問を終わりたいと思います。（拍手）

議長（小田 範 博 君）以上で、上岡千世子議員の一般質問を終わります。これより2時20分まで休憩を取りたいと思いますが、御異議ございませんか。（「異議なし」の声あり）御異議なしと認めます。2時20分まで休憩をいたします。

休 憩 午後 2時08分

再 開 午後 2時20分

議長（小田 範 博 君）再開します。続いて1番、小田壮一議員の一般質問を許します。なお、本人から申し出のあるタブレットの使用を認めます。

1 番（小田 壮 一 君）1番、小田壮一です。ただいま、議長より発言の許可をいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。その前に、私ごとですけれども、9月議会開会中に左足を手術する大けがをしまして、途中欠席することになりました。御迷惑をおかけしまして、深くおわび申し上げます。

さて、質問ですけれども、大きな1番目の学生・生徒支援についてでございます。先日、子どもを県外の大学に行かせているお母さんから、電話で米や野菜など、何か送ってほしい物はないかと聞いたら、その学生は、越知町から送ってもらっているから、かまん。肉も届いておいしかった。米もある、野菜も届く。届いた箱に、よコジローの絵があるからすぐ分かると言っていたと。親としても、本当にありがたいと喜んでおられました。そこで、（1）の質問です。おち家の絆プロジェクトである学生を対象に、特産品を送る支援について、ありがたいとの声を聞き、評判がよいと感じます。現在、何名の申し込みがあるか教えてください。

議長（小田 範 博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）小田壮一議員に御答弁いたします。今年度は、58名の申し込みがありました。コロナ禍に行った支援よりも対象を広げた関係で、令和4年度よりも12名多くなっています。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小田 壮一 君）58名というのは、ちょっと私が聞いていたのは40数名ぐらいだったので、また増えたのかなというように思います。非常に、もろ手を挙げて喜んでくれているなという気がしています。それで次に、（2）の質問です。小田町長の行政報告の中で、未来を担う子どもたちや若者への支援を継続していくと言われていましたので安心しました。ちょっと間抜けな質問となりますが、させていただきたいと思います。ホームページで見ると、今年度は10月31日申請期限となっておりますが、来年度も実施予定であるかを聞かせてください。

議長（小田 範博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）小田壮一議員に御答弁いたします。昨年度のクラウドファンディングでの寄附金も積み立てていますし、今年度もクラウドファンディングを継続していますので、来年度以降も、実施したいと考えています。以上でございます。

議長（小田 範博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小田 壮一 君）私も経験がありますけれども、県外で、こういう一人で生活をして勉強していると、親からいろんな電話、便りが来たりとかするものうれしいですが、やっぱり地方からこのように、要は贈物が届いたりするというのは、物すごく力になるような気がします。自分は、ふるさととつながっているんだなということを実感すると私は思います。なかなか、すごいいい施策だなというように思っております。これからも続けていただくということですので、よろしく願いいたします。

それでは、次に、（3）の質問になります。先般、ある高校生の保護者の方から、子どもは大きくなるにつれてお金がかかるんではないかと聞かれました。物価高騰が続く中、切実な声を聞きました。定期代も負担になる、もっと通学費支援を増額してもらえないだろうかとの強い要望の声を聞きました。今年から児童手当として、高校生1人につき、月1万円支給されることになりましたが、町としても生徒やその家族が頑張っている姿を思うと、通学費支援の増額をも検討すべきと思いますが、本町の考えを聞かせてください。

議長（小田 範博 君）大原教育次長。

教育次長（大原 範朗 君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。午前中に高橋議員の質問で、町長が答弁したとおりですが、もう一度答弁させていただきます。補助金については、来年度から増額したいと思います。今までの月2千円は、西佐川駅や佐川高校など、佐川町までのガソリン代補助として継続し、なおかつ、上積みとしてJRの定期代への補助を考えております。また、寮や下宿などの費用を対象にした補助金も加えるように検討しています。額や制度内容の詳細については、現在検討中ではありますが、来年度当初予算に計上したいと考えております。以上です。

議長（小田範博君）小田壮一議員。

- 1 番（小田壮一君）仁淀川町は、仁淀川町高等学校等通学給付金取扱要綱というのがありまして、そこで月額3万円を給付しており、喜んでいただけるといふことをお聞きしております。今回の、この施策はこの金額に匹敵するのかどうか分かりませんが、大変、高校の生徒と保護者の方に大変喜んでいただけるのではないかなというように思っております。よろしくお祈いします。

次に、大きな2番目の佐川高校についてです。私たちは、日高村、佐川町、越知町、仁淀川町の4町村10名、そのうち、越知町議員は3名ですけれども、議員有志で、佐川高校の存続を考える議員連盟、佐高議連をつくりまして議員としての立場で、創立100年を超えて地域に貢献してきた佐川高校の存続発展に向けた取り組みを推進し、未来の世代に渡すことを目的に活動しております。できますれば、多くの議員の方に加わっていただき、一緒に活動できればというように思っておりますので、よろしくお祈いします。6月議会では、越知町と日高村で佐川高校存続について一般質問をし、9月議会では、佐川町、越知町、仁淀川町で一般質問に立ち、各首長、教育長から佐川高校についての思いをお聞きしました。また、県の9月議会では、地元県議が佐川高校存続に向けたさらなる取り組みについて質問し、県の教育長が答弁をされておりました。このように、いろいろな場面で佐川高校の魅力化、存続についての声が出てきているように感じます。佐川高校、地元の4町村が地域住民を巻き込み、連携、共同して推進していくことが重要と考えます。県内の嶺北高校や椿原高校のような先進的で、入学者増大につなげている高校のホームページを見ますと、中学生に選んでもらおうと、その高校の特色、魅力や進路実績など、迅速な情報発信に力を入れて、意気込みを感じております。（1）の質問ですけれども、織田教育長は、佐川高校の学校運営協議会の構成メンバーですが、そのような場面で発言をしていただければと思つての質問です。質問内容ですが、佐川高校のホームページを見ると、中学生や保護者の方々が進学や就職の進路情報、クラブ活動などほしいと思われる情報を、迅速かつ見やすいように改善される必要があると思つますが、考えを聞かせてください。

議長（小田範博君）織田教育長。

教育長（織田誠君）小田壮一議員にお答え申し上げます。高知県立佐川高等学校のホームページのことなので、越知町教育長の立場で、よしあしは言えませんが、情報発信の一つの方法なので、閲覧者が見やすく分かりやすいものにこしたことはないと考えます。先日、別件で佐川高等学校の校長と話す機会があり、そうした意見を伝えましたら、現在ホームページの改修作業中であり、来年3月末にはリニューアルをする予定といふことを聞いております。以上でございます。

議長（小田範博君）小田壮一議員。

- 1 番（小田壮一君）ありがとうございます。今年度末には、多分、見たら非常に見やすい、意欲を感じるようなホームページの顔になっているのではないかと期待しております。次に、（2）の質問です。5日の仁淀川町議会を傍聴したとき、議員の佐川高校についての質問に対し、執行部が令和7年度から14年度までの8年間の新しい県立高校再編振興計画では、1学年41人以上、2学級が続けられないと、統廃合の対象になると言われ、1月16日に佐川高校コンソーシアムを立ち上げる会議を予定しているとの答弁をされ、具体的な動きをされ出すのだなというように思いました。質問内容ですけれども、魅力的な高校になり入学者を増やすために、地域に根ざした佐川高校を後援する会でさらなる支援をするように提言してほしいのですが、町長の思いをお聞かせください。できれば佐川高校コンソーシアムの内容についても触れていただければありがたいと思います。

議長（小田範博君）小田町長。

町長（小田保行君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。佐川高校の件につきましては、私も6月議会で、なくてはならないということの考えを表明させていただきました。そこで、地域に根ざした佐川高校を後援する会でございますけれども、この会は、昭和23年度からできております。それで、生徒数に応じて支援金ということでありまして、毎年、4町村が35万円を負担しまして、支援の内容については、これも6月と重なりますが、資格試験受験の補助、英語検定などです。それから外部人材による部活動指導、大会参加への支援、部活動の中・高交流、そして地域貢献活動への支援ということで、この後援する会は活動しているところです。そこで、4町村長集まりますので、それぞれ、やっぱり佐川高校の重要性につきましては、生徒数の違いはあれども、やっぱり基幹校として、今後も存続していく必要があるという考えではあります。このことについては、やはり情報共有はこの会でも常にしていきたいと思いますが、今現在、その仁淀川町の答弁言われましたけれども、今の状況、県教委も含め佐川高校、状況につきましては教育長のほうから現状答弁させますので、よろしく申し上げます。

議長（小田範博君）織田教育長。

教育長（織田誠君）小田壮一議員にお答え申し上げます。佐川高等学校の在り方に関する現状ですが、まず10月29日に、県立高等学校の在り方に関する意見交換が越知町役場でありました。出席者は、県教育委員会から高等学校振興課の課長補佐以下2名。高等学校課課長補佐、中部教育事務所、専門企画員、佐川高等学校校長の6名と、県産業振興推進部の越知町在籍の地域支援企画員、当町からは、町長と私の合計9名で

の意見交換がありました。高等学校振興課からは、県立高等学校再編振興計画の次期計画策定に向けての説明があり、佐川高等学校長からは、佐川高等学校の現状と課題の報告がありました。その中で、今後佐川高等学校のアクションプランの作成と実行のために、高校、行政、産業界等が高校の現状課題を共有し、佐川高等学校の魅力化等に向けた目標設定や計画を策定し、取組を進めたいとのことで、当町は承諾いたしました。なお、近隣の仁淀川町、佐川町、日高村も承諾が取れたとのことで、来年1月からその会議が開始予定です。それが議員のおっしゃられるコンソーシアムで、1月16日がキックオフでございます。佐川高等学校のアクションプラン作成において、高校で行うこと、町村が行うこと、連携して行うこと等の整理をしていくとのことであります。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小 田 壮 一 君）なかなか急激には推進することはできないと思いますけれども、やっぱりこのような形でコンソーシアムを立ち上げるということは、すごい前進ではないかというように思います。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思いますし、私どもも議員の立場として、どの程度できるかは分かりませんが、迷惑にならないように活動をしていきたいというように思います。よろしくお願ひします。

それでは次に、大きな3番目の観光地整備についてでございます。本町は、アウトドアなまちにするぜよ！宣言をしております。美しい仁淀ブルーを楽しめるスノーピークが運営する日ノ瀬キャンプフィールドを中心に、仁淀川沿いに幾つかのキャンプ場があり、今年の夏も家族連れや仲間と、または、ソロでキャンプをして川遊びなどを楽しんでいる観光客が多くおられました。私は、越知のキャンプ場と言えば、まず、小浜キャンプ場を思い浮かべます。佐川高校3年夏の夜、みんなでキャンプファイアを囲んだ楽しい思い出があります。小浜キャンプ場は、アウトドアな町のレガシーとしての存在であるべきと思います。そこで、(1)の質問です。小浜キャンプ場近くの住民からは、観光客が安心して快適に楽しめるように、また住民のストレスにならないように、キャンプ場の管理を望む声があります。本町として、キャンプ場の現場調査、点検をしているか聞かせてください。

議長（小田 範 博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）小田壮一議員に御答弁いたします。小浜キャンプ場の管理に関しましては、観光協会にトイレの清掃を委託しています。頻度としましては、平均して週に2回程度となっております。ほかには不定期ではありますが、地域おこし協力隊の環境保全のミッションの隊員と観光振興のミッションの隊員が各キャンプ場、観光地の清掃に回ってくれています。また、毎年キャンプシーズンの7月に半日、8月に半日、越

知町職員による合同作業でキャンプ場の草刈り等、清掃活動を行っています。なお、2カ月に1回浄化槽の管理業者が点検に行った際に、何か異状に気がつけば連絡をしてくれることがあります。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小 田 壮 一 君）結構、小浜キャンプ場のちょっと前の、草木が大きくなったりとかして、観光客が来られたときに、何かああきれいというような感じでもなく、また山手のほうの草木が結構生い茂ったりして、そこに水場がある。料理とかする水道なんかが、あったりするけれども、そこにも、たまたま私が見に行ったときには、家族か何かで来ておられて、ちょっと警戒しつつ、それ使おうというような感じが見受けられました。2カ月に1度とかされていると思いますが、ぜひとも来て喜んでもらえるような、そういうような環境にしておいていただければというように思います。それで、（2）の質問です。キャンプ場の山手の後、トイレ付近も含めて草木を刈り清掃しておかないと、竹やぶなどにいるマムシがはみ出して来るおそれがあると、そばでつくっている畑にマムシがいることがある。清掃し、トイレ付近、水道付近を含めて何か所かに、マムシ注意の看板を立てたほうがよいとの声を聞きました。それで、日ノ瀬のキャンプ場に行って清掃されている方に聞きましたら、トイレやシャワー室含め、多くの場所にマムシ注意の看板を立てているとのことで、実際、その看板を確認してきました。それと、車で河原に乗り込んでくる観光客の方がいて、ときに動けなくなり、外に出られなくなって助けを求められる場合があるとのことです。ワイヤを引っかけてトラクターで引っ張ってやろうと思っても、車を傷つけたりするおそれがあり、対応に苦慮するとのことです。そこで、（2）の質問ですが、小浜キャンプ場を見に行き、住民から次の要望がありました。草刈りなどして、キャンプ場入り口周辺を清掃するとともに、河原への車の乗り入れとマムシへの注意喚起をしてほしいとの声がありました。対応を検討すべきと思いますが、考えを聞かせてください。

議長（小 田 範 博 君）國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君）小田壮一議員に御答弁いたします。小浜地区の区長ともう一人だけですが、私も住民の方にお話しを伺ってみました。キャンプ場の管理が悪すぎるというような話はありませんでしたし、たまに、車がスタックして、厚意で助けることもあるということでしたので、それらが苦になっていないか確認しましたが、特に強いストレスを感じているような様子はありませんでした。マムシのことも、頻繁に出没しているような話しはなく、特に、要望はそのときは聞かれませんでした。草刈りにつきましては、先ほども申し上げましたとおり、職員が7月、8月に2日間、半日ずつ行っていますが、いつも割ときれいなので、早く切り上げて別の班の応援に行くこともあります。今年は暑さのせいか、

草も枯れて茂っていませんでした。ちょっと見た時期が、違っていたかとは思いますが。竹やぶのことにつきましては、河原と民地の境界がはっきりしないので、伐採や草刈りは行っていません。今後、草刈り、清掃が不十分な場合には、手だてを考えたいと思います。河原への車の乗り入れや、マムシへの注意喚起につきましては、地区の方にも直接詳細を確認しまして、必要ということになれば、設置するようにしたいと思います。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小 田 壮 一 君）國貞課長が聞かれたこと、情報はそうかも知りません。私も言っているのは、別に増幅して言っているわけじゃなくて、そんな声をお聞きしましたので、よろしく願いいたします。

次に、大きな4番目の南海トラフ巨大地震についての質問でございます。私は、2011年3月11日の東日本大震災当日は、東京にいましたが、2日前の3月9日に揺れた前震と、その1カ月後に起こった4月7日23時32分に発生した震度6強の余震のときは、仙台にいました。夜中に寝ていて、震度6強の余震を経験しました。4階で突然激しく左右に揺さぶるような揺れに電気が消え、暗闇の中で本棚が倒れる大きな音がして、冷蔵庫は倒れずに、はんでいる音がしたんですね。それでマンションが、今回の能登半島地震で横倒しになったあのマンションのように、もう倒れるのではないかとの不安でいっぱいでしたが、地震の強さが収まらないので、そのうちにもうどうにでもなれと思うと、力が抜けて静まるのを待ちました。無事でよかったのですが、その後、外を眺めても、町中まっ暗闇で何も見えず、もう寝るしかありませんでした。この恐ろしさを家族に経験させなくて、単身でよかったと思いました。本町では、地震を感じることはほとんどないので、今まで南海トラフ巨大地震も心配していませんでしたけれども、8月8日の日向灘の地震で、もしかしたら近いのではないかと心配になっているところです。まず、（1）番の質問です。近い将来、高い確率で発生するおそれがあるとされる南海トラフ巨大地震について、本町での最大震度をどれぐらいに想定されているのか教えてください。

議長（小 田 範 博 君）片岡危機管理課長。

危機管理課長（片岡宏文君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。南海トラフ地震発生時に想定される本町の最大震度は6強です。なお、この震度は平成24年8月に内閣府が公表した数字となります。以上でございます。

議長（小 田 範 博 君）小田壮一議員。

1 番 (小田 壮一 君) この6強というのは、本当にすごいです。とてもじゃないけれども、はっきり言って私の今住んでいる家なんかは、一揺れで、壊れるような感じがしますが、やっぱりいろんな耐震とか、そういう対策を立てて進められていると思いますけれども、できる限りそういうことがないように、やっぱり思っているところです。今回の巨大地震注意の臨時情報に対して、本町は8月9日10時に、越知町民会館を避難所として開設しました。県内自治体の中でも早い段階での開設だったと思います。南海トラフ巨大地震が発生したら、家屋倒壊や山崩れを心配しております。そこで、(2)の質問です。特に、山間集落では、家屋倒壊や山崩れによる家屋の被害、道路の寸断などが想定されますが、被災者の一時避難所、指定避難所の数及び避難所の耐震対策、空調設備などの点検、避難所運営の周知など進んでいるか教えてください。

議長 (小田 範博 君) 片岡危機管理課長。

危機管理課長 (片岡宏文君) 小田壮一議員に御答弁します。まず、南海トラフ地震が発生した場合、本町で想定される避難者の総数は750人となっています。こうした避難者が利用可能な避難所は、地域防災計画に定めるとおり、町内に60カ所あります。内訳は、集落の集会所など緊急的に避難するための指定緊急避難場所が52カ所、町民会館や公民館など長期の避難生活に適し、一帯の拠点となり得る指定避難所は8カ所でございます。次に、耐震状況につきましては、避難所60カ所中、41の避難所が耐震性を有しており、指定避難所については、8カ所全てが耐震性ありとなっています。避難所の耐震化は地震対策の根幹として、また空調設備などの整備点検につきましても、夏場、冬場に避難生活を送る上で、重要な部分とは考えていますが、集会所のように地元集落で維持管理をお願いする建物もあれば、校舎や公民館のように町が維持管理している物もあります。

最後に、避難所運営の周知に関する御報告ですが、避難所運営マニュアルなど、避難所の開設や運営に係るルールづくりができている避難所は34カ所ございます。なお、指定避難所8カ所は全て避難所運営マニュアルを策定済みとなっております。今年9月には、指定避難所である越知中学校で、中学2年生による指定避難所開設運営訓練をマニュアルに沿って実施しました。この訓練では、生徒自身が被災者だけでなく、支援者として避難所を運営することで、自助、共助の大切さを体験できた有意義な訓練となりました。以上、地震対策の一部について進捗状況などを御報告しましたが、まだまだこれからです。地域の防災力向上のために、引き続き避難所などの耐震、環境改善、備蓄物資充実、そして、住民の皆さまに向けての防災学習、防災訓練などを進めてまいりますので、御理解のほどお願いいたします。以上でございます。

議長 (小田 範博 君) 小田壮一議員。

1 番（小田壮一君）避難所の周知を34カ所はできていると、開設も含めて。残り16カ所これについては、別に何か考えていることとか、これからやるとか、そういうのというのはどうですかね。

議長（小田範博君）片岡危機管理課長。

危機管理課長（片岡宏文君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。言われるとおり、60カ所全ての避難所にマニュアルはできておるわけではございません。というのも、一つ理由がありまして、地区の集会所などにつきましては、その建物自体が、いわゆる土砂災害警戒区域内、レッドゾーン、色ゾーン内にある建物もございまして、そういう建物の中にはマニュアル等がつけられるというルールがございませんので、こういうこともあって、全ての避難所にマニュアルがあるわけではないという状況になっております。以上でございます。

議長（小田範博君）小田壮一議員。

1 番（小田壮一君）実際そうかも分からないし、私の住んでいる多分集落も、その集落の集会所も、その一つではないかなというように思います。だからもし、そんなこともあって避難所といっても、そこを想定は、なかなかするのも難しいのかなということを考えつつ、じゃ集落は、みんなどうするかということ、事前に話しておかなければいけないのかなというように思ったりしているところです。それと先ほど、訓練、越知中学校でされたという。それマニュアルに沿って訓練されたというのは、すごく私は、そういうのをいろいろほかにもやられていますが、いいことだなと思います。実は私、釜石のあの大きな津波が押し寄せたところに行って、ここに幼稚園もある、横に消防署もあるという、こんなところで大丈夫なのかなとふと思っていたんですけども、たまたまそういう大きな地震が来て、それで、釜石の大きな津波の映像が出たときにその消防署とか、救急車がぶかぶか浮いているんですよ。うわっと思って、そこにいた幼稚園の子どもたち、その子どもたちはどうしたんだろうなとずっと思っていたんです。そうすると、あるときにあの子どもたちは、先生がちゃんと上に連れて上のほうに上がって行って無事だったということを聞いて、ものすごいほっとしたことでした。ああいうのは思いがけない地震なんかも、やっぱり訓練というか、そういうことをしていたおかげで、ちゃんと誘導できたんじゃないかなと思います。だからそういうのは、物すごく大事なかなというのはつくづく思っております。これからもお願いします。それと、今度（3）の質問ですが、携帯電話の電波が入りにくい山間集落、この辺は、よくありますけれども、災害対策本部との通信手段確保はできているのかどうか、聞かせてください。

議長（小田範博君）片岡危機管理課長。

危機管理課長（片岡宏文君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。議員が言われますように、災害時に集落と災害対策本部をつなぐ通信手段は、大変重要なものと認識しております。それでは、本町における災害時の通信手段確保に関しまして御報告いたします。まずは、防災行政無線による双方向通信機能です。これは、町内の指定避難所など6カ所に整備しており、防災行政無線の柱に無線通話のボックスを設置しております。次に、消防無線の活用が挙げられます。この消防無線が、集落と災害対策本部をつなぐ最も有効な通信手段となります。御存知のとおり、町内には5つの消防分団があり、消防車両に積載する無線や手持ちの携帯無線など、本町では75台の消防無線機を保有しています。なお、災害時には、消防団も災害対応に当たりますので、集落ごとの被災状況や必要な救援物資の報告など、消防団から災害対策本部に必要な情報が送られてきます。また、集落から災害対策本部への発信専用の通信手段となりますが、特設公衆電話という非常電話もございます。この特設公衆電話は、NTT西日本のご厚意により設置していただいているものですが、まだ、全避難所には設置できておらず、町内34の避難所に整備しております。そのほかにも、IP無線という携帯電話と無線を足して2で割ったような通信機器9台が役場にあり、これは、8月の台風10号接近により、開設した避難所運営でも活躍しました。なお、衛星携帯電話も2台あるのですが、機器代、ランニングコストが高額であるため、各集落に配備することは難しいと考えます。以上、現時点で通信手段について御報告いたしました。もちろん、現状で十分とは思っておりません。災害時の通信手段の強化、拡充は、今後の防災対策における重要課題となっております。通信手段の多重化や災害に強い通信機器の模索など、県はもちろん、本町を含む県下市町村でも検討の最中であり、引き続き非常時における通信手段の確保に努めてまいります。以上でございます。

議長（小田範博君）小田壮一議員。

- 1 番（小田壮一君）よろしくお願ひします。次に、（4）の質問なんですけれども、東日本大震災直後、食料確保が大変でしたが、大型スーパーは復旧できない中、コンビニは開いていて助かりました。大型のスーパーというのは、地震が起こったらスプリンクラー、ぶわっと水をかけるんです全体に。そうすると、置いている食料品からそういうのもう全て水浸しになるから、それを復旧させるのってものすごい時間かかって、閉店となってくるんです。その点、コンビニはそんなことないので、貯蓄していた在庫なんかを使ってくれたと思うんですけれども、コンビニは被害を受けて、100%状態での対応はできていなかったんですけれども、店内にお客さんを10名ぐらい入れるんですね。それで購入商品は5点までというのを条件として、対応しておりました。それで、10名が買い終わったら、また次の10名が入ってくると、そんな形で対応をしてくれたので、買えるようによう考えてくれたなと思いました。本当に助かりましたが、南海トラフ巨大地震が発生したら、このような事

態も起こり得ると思われま。また、私が今回の入院したときに、南海トラフ巨大地震を想定した災害医療の研修会があつて、頼んで聞かせていただきました。その中で、まず建物の被害状況や電気、水道、ガスなどのライフラインの被害状況により、病院が機能しなくなるおそれがあると。自治体との連携協議が必要と言われていました。質問の内容ですけれども、スーパー、コンビニや医療機関などとの事前協議が必要と思いますが考えをお聞かせください。

議長（小田 範 博 君）片岡危機管理課長。

危機管理課長（片岡宏文君）小田壮一議員に御答弁申し上げます。結論から申し上げますと、議員が言われます事前協議、いわゆる災害時応援協定は、必要と考えております。それでは、本町の災害時応援協定の現状について御説明いたします。まず、スーパー、コンビニエンスストアとの食料品や日用品などに関する協定は、こうち生活協同組合と株式会社サンプラザなどと、流通備蓄品の提供を目的として、既に協定を締結しております。同様に、医療機関に関しましても、高知県医師会や高知県薬剤師会高吾支部と医療や医薬品の提供に関して協定を締結しておりますが、災害医療救護計画においても、町内の医療機関、調剤薬局の代表者、事務長などと災害時の役割分担協議事項について、あらかじめ協議済みとなっております。なお、もう少し御説明しますと、越知町建設業協会と道路啓開をはじめとする応急対応、電気、ガス、通信などのライフライン事業者とは災害時の復旧などに関して、協定を締結しております。このように現時点では、多方面にわたって33の協定を締結しておりますが、災害時でもコンビニエンスストアは営業しており、大いに活躍したという実例もございますので、今後、必要に応じてコンビニエンスストアやドラッグストアも含めた、その他事業者との協定拡充に努めたいと考えます。

最後に、広報紙などでもお知らせしていますが、食料品や日用品に関しましては、やはり住民の皆さまが日頃から家庭備蓄を行い、非常用持ち出し袋を備えるなどして、公的な支援物資到着までの間、自助、共助によって乗り切っていただきたいと思ひます。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

1 番（小田 壮 一 君）いろんな協定も33です。着々と進めていただいているのかなというように思ひます。このようにして、結構やっぱり時間があるので、そういう対策が取れているのかなと思ひます。やっぱり東日本大震災の時には、それほど多分対策を取れていなかったの、そういう被害も大変多くなつたのではないかなという気がします。今は、本町も対策をきっちりされているなというように思ひました。

次に、5番目の集落活動センターについてです。私は、集落活動センターが運営する喫茶のかなによく行きます。土曜日は、ほぼ満席状態で、

モーニングを食べながら、こういうところがあるけ、いいね、と楽しくにぎやかにおしゃべりをしています。すばらしいコミュニティーだと思います。今年も、運動会には、けがで参加はできませんでしたが、プールの清掃や盆踊りの練習、準備作業、踊り子としての参加をしました。支援員の方や地元の方々が参加して、チーム横島と集落活動センターを盛り上げられており、宿泊客や喫茶に来られる方々も増えているようで、活気が感じられます。集落活動センターは、平成30年3月にオープンして6年が経過しております。そこで、(1)の質問ですが、横島集落活動センターは、発展期に入り事業の継続、拡充、安定収入確保、人づくりなどが求められておりますが、本町のその評価を聞かせてください。

議長(小田 範博 君) 國貞企画課長。

企画課長(國 貞 満 君) 小田壮一議員に御答弁いたします。平成31年にオープンした横島西部集落活動センターは丸5年が経過し、活動の効果検証をする時期がきています。集落活動センターは宿泊事業、喫茶事業、コインランドリー事業、お助け隊事業など、地域住民の意見を聞いて、地域がやってみたい事業を実施するという原則でオープンしました。これらは集落支援員が交代しながらも、年月とともに地域に定着してきました。また、盆踊りや運動会をはじめ、地区の伝統を継承していく取り組みも忘れていません。集落支援員は、和気あいあいと横島西部地区をまとめる役割を果たそうと頑張ってくれています。人づくりに関しましては、企画課と連携を図りつつ、集落支援員の研修にも参加し、先進事例なども学び、向上心を持って活動してくれていますし、今年度は、会長の交代もありましたが、会長は集落支援員の経験者であり、何とも心強い限りです。事業の継続、拡充につきましては、集落支援員のほうで、食事の提供体制や近年問題となっているサンショウの収穫時の人手不足への対応など現状の課題を見つめ、今後の展望を描いてくれています。それらがうまく機能するようになれば、収入アップも期待できると考えています。集落活動センターは、役場がリードしてあれをやってください。これをやってくださいというものではありません。地域のために、地域でできることをやっていくものですので、今後も定着してきた事業、地域住民が楽しみながらできる事業、見えてきた課題の解決に向けての事業を進めていただければ、役場は応援していきます。なお、横島西部集落活動センターについては、県費のほかに国費も充当していることから、第2回まち・ひと・しごと、創生推進会議の場で検証を行いましたので、数値的な評価を含めて、全員協議会の場で御報告いたします。以上でございます。

議長(小田 範博 君) 小田壮一議員。

1 番(小田 壮一 君) 昨日もちょっと、支援員の人と電話で話す機会がありまして、今までは、こうしようとか、こうしたらどうでしょうと言う

と、なかなかいろんな意見が出てまとまらなかったけれども、最近はこうしたいということを提案すると、そうしたら、ほなやってみようということになってきていると、それはすごく、支援員の人たちの信頼関係が醸成されてきているんじゃないかなという気がします。それで、うまく回りつつあるし、私が行ったときに、常に何かニューフェイスがおられるんですね。手伝ったりとかしている。その人って誰と、聞いたりするんですけども、やっぱりそういう、結構そこに応援とかそういったもので、参画して来てくれている人たちも増えてきているのかなということを感じております。ぜひ、このような形で発展していっていくと、町は、リードはしないでらうけれども、うまく誘導していただくような、そういうサジェスションとか含めて、やっていただければなというように思います。

次に、(2)の質問です。野老山地区はハナモモ、おとなの学校、昔の農業、林業、養蚕などで使った民具コレクション、それとか、サカキとかシキミの栽培や、野老山探検隊の活動など、集落活動センターへのポテンシャルの高さを感じます。一方で、もう限界との声も聞こえてきます。質問内容ですけれども、まち・ひと・しごと総合戦略に野老山地区については、小さな集落活性化事業の導入を推進していくとありますが、対象の集落は、どの範囲を想定されているのかお聞きします。

議長（小田 範博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 小田壮一議員に御答弁いたします。対象の集落は、野老山地区全域であり、除いている集落はありません。以上でございます。

議長（小田 範博 君） 小田壮一議員。

1 番（小田 壮一 君） この小さな集落活性化事業の推進の期間というのは、令和4年度から令和6年度までと理解しておりますけれども、この実現への見通しについて聞かせてください。

議長（小田 範博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 小田壮一議員に御答弁いたします。役場としましては、野老山地区は、これまでの地区ぐるみ会の活動や人口規模的なものであるとか、いろいろな面を見た上で、横島西部地区に次いで集落活動センターを設置できる地区ではないかと期待をしていました。先ほども申し上げましたが、集落活動センターは、役場が無理に推し進めるものではなく、地域でできることを地域住民が楽しみながらやっていくものですので、集落活動センターを設置する準備として、集落活性化事業という補助事業を使いながら、集落支援員が中心となって、今後の地域の方角性、集落活動センターの設置実現を確認してきたところです。集落活動センターの設置の見通しは立っていません。小さな集落活性化事業を

入れて3年、それ以前から都合7年、設置について検討してきましたが、もうこのあたりで結論を出す時期ではないかと考えています。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小 田 壮 一 君）いろいろ課題はあるかと思いますが、やりたいという人たちもまだおられて、進めていったりとかしているようにお見受けするんですが、この辺でというお話、今お聞きしましたが、それが本当であったら、残念なのかなというような気がします。何か、いつまでも続けていってもしようがないという一方で、やっぱり可能性とか、そういったものがある以上、うまく何かコーディネートできる人材とかがおられたら、またそのコーディネートする役割は、越知町ではないのかなと思ったりもします。だから、何とかそういったものをうまくまとめてあげて、スタートができるところまで持っていかれたら、何か前に進んでいけるような気がするんですけども、ぜひ、その辺もよろしくお願ひしたいと思います。それと、（4）は対象外、対象が全野老山ということ言われましたので、これは、もうパスさせていただきます。

議長（小 田 範 博 君）すみません。

ちょうど1時間を超えましたので、お諮りをいたします。一般質問の途中でございますが、これより3時30分まで休憩を取りたいと思いますが、御異議ございませんか。（「異議なし」の声あり）御異議なしと認めます。それでは、3時30分まで休憩をいたします。

休 憩 午後 3時20分

再 開 午後 3時30分

議長（小 田 範 博 君）再開します。引き続き1番、小田壮一議員の一般質問を許します。

- 1 番（小 田 壮 一 君）それでは、次に、大きな6番目の移住・定住促進についてでございます。11月12日高知新聞に、自然風土に合わせた暮らしについて考えるスローライフ・フォーラムが10日に梶原で開かれたと載っていました。濱田知事も登壇されたパネル討議で、日本郵政の社長で、消滅可能性自治体を公表した民間組織、人口戦略会議の副議長を務める増田寛也氏が、二地域居住を推進する法整備に触れ、二つの地域に住民票を置けるようにして、一部は地方の居住地へ納税し、地域活動に参加できるように進めていくべきだと強調されておりました。もちろ

ん、この法整備については、これからの検討と思われませんが、地方への人口移動に可能性を感じさせるものと思います。町内でも、既に二地域居住の方がおられると思いますし、ひょっとしたら私も、その一人ではないかなと思います。本町も移住・定住促進策を推進しておりますが、このような二地域居住のニーズに応じていくべきと考え、質問させていただきます。国土交通省は、地方への人の流れの創出・拡大を通じて地域の活性化を図るため、二地域居住を推進しており、その促進策として、本年10月29日、全国二地域居住等促進官民連携プラットフォームを設立しましたが、本町もこれに登録してはどうかと思いますが考えをお聞きします。

議長（小田 範 博 君） 國貞企画課長。

企画課長（國 貞 満 君） 小田壮一議員に御答弁いたします。この組織は、従来あった協議会を改め、全国二地域居住等促進官民連携プラットフォームとして発足したようです。県内では6市町村が加入しています。お隣の仁淀川町は、令和4年から加入しているそうですので、これから調べてみて、越知町も加入について検討していきたいと考えています。以上でございます。

議長（小田 範 博 君） 小田壮一議員。

1 番（小 田 壮 一 君） 先ほど、今言われたように、仁淀川町も登録されています。そこの仁淀川町をクリックすると、ぱっとホームページに移って、その移住・定住の紹介とか、そういったものが出てくるようになっていて、そんなちょっと二地域居住、これって結構、私も思うんだけどもニーズというか、私もそういうようになりたいと思っているんです。それは、ぜいたくな話しかも分かんのですけれども、そういうような人がおられると思いますので、ぜひこれ加入というか、登録をしていただければというように思います。よろしくお願いします。

次に、大きな7番目の庁舎のバリアフリーについてです。障害を持つ住民の方から、役場にエレベーターをつけてほしいと、階段の両側に手すりをつけてほしいとの声がありました。なぜと思ったんですが、片側でよいと思っておりましたけれども、片方の手足しか使えないので、上り下りするとき、両側に必要だと言われました。ああそうだなと思いました。また、別の方からは、議会の傍聴に行きたくても、トイレが近くにないから行けないと言われましたし、またちょっと今の傍聴席も、私のしゃべっているのをなかなか聞きづらいということで、そういったことも聞こえるようにしてくれというような声も聞きました。現在の庁舎では、障害のある方や高齢者の方にとっては、来庁しづらいハードルの高い状況にあります。本町としては、誰でも来やすいように改善すべきと考えます。そこで、質問内容ですが、高齢者や障害者が、安心して役場に来られるようにエレベーター、トイレの新設やバリアフリーなど、ハード面の拡充をすべきと思いますが、考えを聞かせてください。

議長（小田 範 博 君）井上総務課長。

総務課長（井上 昌治 君）小田壮一議員に答弁申し上げます。まず、エレベーターについてですが、来庁者の方から、確かに、私ども意見をいただくことはございます。以前も、これについて検討したこともあったようですが、本庁舎に関しましては、平成21年に耐震改修を行いました、昭和47年竣工の建物でして、構造上設置が困難であったという結果を聞いております。また、手すりに関しての部分ですが、議員おっしゃられるように両側の手すりというところについては、私どもも気づいていなかったところではございます。また、この傍聴席からのトイレについても、構造上、一度2階に降りていただかないと行けないというような状態になっております。トイレに関しましては、ちょっと傍聴からは外れますが、1階に車椅子でも利用できるようなトイレを、ここに関しては耐震改修の際、平成21年に新設をしております。このときに2階、3階のトイレについても検討しておりますが、構造上大きなスペースを取ることが難しかったので、1階部分の増設のみになっております。また、それ以外のバリアフリーについては、各階のトイレの洋式化や自動ドアの設置、またこの傍聴に上がって来られるところの西側の階段への手すりの設置も行っておりますが、ここに関しても、その両側というところの視点で見るところは、今まで、できておりませんでしたので、今後、このエレベーターというところは、構造上難しいかと思えます。また、傍聴席から直接トイレへ行けるようなトイレの設置に関しても、構造上かなり大きな変更が必要となってまいります。大規模な改修の際等には、併せて検討をすることも考えたいと思えますが、まずは、できることから、先ほどの両側の手すりであるとか、というようなところから検討してまいりたいと思えます。以上でございます。

議長（小田 範 博 君）小田壮一議員。

- 1 番（小田 壮 一 君）今の状態は、こちらのほうに傍聴に来られた方は、そこでスリッパに履き替えて、それで来られるんですね。そのスリッパに履き替えることも、もう大変だと言われて、これは議会で要望しているところなんですけれども、土足で入ってもらえるようにしたらどうかということなんですけれども。それで今度は、トイレに行きたくなったら、またスリッパを靴に履き替えて下りて行かなきゃいけない。こういうことを繰り返すこと考えると、もう傍聴には来られないというような、そういう声があります。だから、今言うことは、エレベーターもできない、トイレも難しいとこういう話しは分かりはしますが、何とかこの工夫というか、知恵というか、そういったものを出してくれて、来庁、こちらの庁舎に来られる方が、健常な大丈夫な人はええんだけど、高齢者の方とか、障害のある方も安心して来られるというような、環境をつくっていくことも考えてほしいと思うんです。だから、すぐにとは、難しいかも分かりませんが、ぜひそういうことを真剣に考えていって

ただきたいと思います。私、思うんだけど、今後こういうことが続くと、そう簡単にこのビルも建て替えることができないと思います。だから、住民へのサービスについて、自治体間格差が生じるのではないかと危惧しているところです。だから、そういうことを私はちょっと感じたりしているので、できる限り、来ていただいて、2階に上がったりするケースも結構あるようにお聞きしますので、簡単に上がれたりとか、ここでも安心して傍聴できるような、そういう環境づくりを考えていただきたいなと強く思います。ぜひ、町長の見解というか、所見をいただければと思います。

議長（小田 範博 君）小田町長。

町長（小田 保行 君）小田壮一議員に私のほうから、ちょっと答弁させていただきますが、おっしゃることよく分かります。自治体間格差があるのではないかと、それは自治体によって、いろいろな財源を使いながら新しくしたところもございます。本町につきましては、今回の質問での課題については、これまでも検討してきたことでありますけれども、構造上、本当に、これ専門家、構造計算をする設計事務所等からの話の中で、この現状では、なかなか難しいということで、先ほど、総務課長が言いましたように、手すりについては、本当に検討できるというかやれることだとは思いますが。ただ、これらの課題を全部解決しようとする、やはりこの庁舎では無理となれば、建て替えるということになりますが、そうなってくると、庁舎というものについては、非常に単費を要する事業です。補助金がなかなかございません。そういったようなことで、非常に難しさがありますので、おっしゃられることよく分かりますが、検討してということの中で、私は、過度に期待をしていただいてもなかなか非常に難しいということを御理解いただくと、ちょっとこの件については難しいこともあるかと思います。それと、議場のこのことにつきましては、議会での御議論もあるようですので、そこはよく御議論していただければと思います。以上でございます。

議長（小田 範博 君）小田壮一議員。

1 番（小田 壮一 君）非常に難しいというのは、理解もします。ただ、意識をし続けていただければというように思います。よろしくお願ひします。

次に、大きな8番目の国道33号通行規制についてでございます。今年も1度、連続雨量が250ミリに達して、越知町横倉、仁淀川町間が通行止めになりましたが、通行止めになるたびに、車が走らなくなった目の前の国道を眺めながら、実はその前に仁淀川の濁流があつて、それも相まって不安と不便を感じますが、私だけでなく、日頃国道33号を使っている人々は同じだと思います。町道など、迂回道路を使うのも、

国道よりもっと危険を感じながら使っていると思います。小田町長の行政報告の中で、土木行政道路河川の要望活動についての中に、事前通行規制区間である越知町野老山から仁淀川町橘間の規制の解消を要望したとありましたが、越知町横倉から越知町野老山間は、既に事前通行規制が解消になっていると読めます。おち広報の11月号の12ページに載っていた内容を基に質問をしますが、小田町長の行政報告内容を踏まえ、答弁をいただきたいと思いますが、(1)番です。7月18日に行われた高知松山自動車道勉強会の中で、越知町、仁淀川町間事前通行規制解消について、どのような説明があったかを教えてください。

議長(小田 範博 君) 岡田建設課長。

建設課長(岡田 孝司 君) 小田壮一議員に御答弁申し上げます。この勉強会は国、県、越知町、仁淀川町の担当者が集まり、これまでの検討状況を踏まえ、今後の整備に向けた意見交換会を行う勉強会でございます。この勉強会では、令和2年3月5日に沿線自治体の首長が出席し、国道33号道路整備検討会を行い、その中で、越知、仁淀川間は事前通行規制が主要な課題であり、通行規制区間解消の観点で検討を進めるとの方向性が確認されております。今回の勉強会でも同様の方向性をこの担当者間で、再確認した内容となっております。具体的な内容につきましては、国において調査段階であり、お示しするものとなっております。御理解のほどよろしくお願いたします。また、越知町横倉から越知町野老山までの区間の規制につきましては、現在道路改良を施工しておりますので、今回の要望等に入っておりません。以上でございます。

議長(小田 範博 君) 小田壮一議員。

1 番(小田 壮一 君) 今の御答弁の中では、判断すると横倉から野老山までは、解消するための条件に合致しているんじゃないかなというように読んだんだけど、そうではありませんという話なんですか。今までどおり、横倉から野老山も規制対象の区間であるということですか。

議長(小田 範博 君) 岡田建設課長。

建設課長(岡田 孝司 君) 小田壮一議員に御答弁申し上げます。現在行っております越知道路2工区の現況活用区間の改良工事が行われております。こちらが完了後は一応連続雨量250ミリの事前通行規制を経験した後、事前通行規制に関わる有識者会議にお諮りすることとなっていることを、国からお伺いしております。その結果次第ということになります。以上でございます。

議長(小田 範博 君) 小田壮一議員。

1 番(小田 壮一 君) 今までの認識は、工事は進んでいっても、なかなか規制対象であるというように思っておりましたが、今の答弁をいただくと

少しは進展しているんじゃないかなという気がしました。そういう点では、質問してよかったかなという気がします。

次に、(2)の質問ですが、広報おちに載っていたんです。同勉強会で、自治主体で議論を深め、次回に参加とありますけれども、住民も参加して、質問、意見、要望などを言える機会をつくるべきだと思いますけれども、考えを聞かせてください。

議長(小田 範 博 君) 岡田建設課長。

建設課長(岡田 孝司 君) 小田壮一議員に御答弁申し上げます。現段階では、先ほど申したように、具体的な内容につきましては、調査段階でお示しすることができないため、そのような予定はちょっとございません。ですが今後の情勢に応じて、以前、いの、越知間であったように、道路利用者へのアンケートや各自治体での意見交換会、いわゆるワークショップですが、あるのではないかと考えられます。その折には、御協力をお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。以上でございます。

議長(小田 範 博 君) 小田壮一議員。

1 番(小田 壮 一 君) 住民は、いろんなことを言いたいというか、やっぱり要望とかそういったものがありますし、先ほど言ったいつになったらというようなことも、やっぱりずっと思っていると思いますので、できればそういう機会、何かありましたら、可能性としてあるんだったら、またそういう場面をつくっていただければというように思います。

最後に、これ私もすごく、議員としても頑張らなきゃいけないなというように思ったんですけども、12月1日の高知新聞に、高知の文芸というのがあって、そこに短歌がありまして、「あれていくふるさとさびしいポスターがおれにまかせろとあめにぬれている」評が、ここでのポスターは選挙ポスターのことだろうと、過疎化に悩むふるさとを作者は寂しく眺めている。すっかり寂れてしまった風景の中で、選挙立候補者の任せろというせりふが降りしきる雨にぬれて、ますますむなしく感じられると、現代の社会問題を巧みに読んでいる、と評されておりました。私も何かちょっとでもできるように頑張らなければいけないなと思いました。その人は気軽に出て、話しを時々よくしている人なんですけれども、こういう短歌を書けるその才能に感心をいたしております。以上、長くなりましたけれども、一般質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

議長(小田 範 博 君) 以上で、小田壮一議員の一般質問を終わります。

お諮りします。本日はこれにて散会したいと思います。御異議ございませんか。(「異議なし」の声あり) 御異議なしと認めます。明日1

0日は午前9時に開会します。それでは、散会をいたします。

散 会 午後 3時54分